



祈り

目次

1. 祈りとは何か?	5
2. ダビデの祈りの生涯	10
3. 詩篇にある祈り	15
4. 黙祷	20
5. 個人的な祈り	26
6. 祈祷会	31
7. 公の祈り	36
8. 他の人々のために祈る	41
9. 祈りの制限	47
10. 聖霊を求めて祈る	52
11. 祈ることを教えてください	57
12. 祈ることを学ぶ	62
13. 生きる方法としての祈り	67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.94, No.3

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

FAX: (0494) 40-1045

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト: Illustrations: Adobe
Stock on the front cover,
and Map Resources on pp.
4, 72.

まえがき

「わたしたちの天父は、満ちみちた祝福をわたしたちに与えたいと待っておられる。限りなき愛の泉のほとりで思う存分飲むことは、わたしたちの特権である。それなのにわたしたちが少ししか祈らないのは、なんと不思議なことであろうか。神は、その子らのもっともつましい者であっても、心からの祈りにはいつでも耳を傾けようとしておられる。それにもかかわらず、わたしたちの方でわたしたちの要求をなかなか神に告げようとしないのである。神は、限りない愛をもって人類をみ心にかけ、いつでもわたしたちが求めたり思ったりする以上に与えようとしておられるのに、誘惑にさらされているあわれな無力な人間があまりにも祈らず、あまりにも信仰がないのを見て、天使たちはいったいどう思うことであろう。……」

悪魔の闇は、祈りをおろそかにする者を閉ざす。誘惑の言葉をささやいて、彼らを罪へおびき入れる。それはただ、神の定められた祈りの特権が与えられていながら、彼らがそれを用いないからである。祈りは、全能の神の無限の資財が蓄えられている天の倉を開く信仰の手に握られた鍵であるのに、神のむすこ娘たちは、なぜ祈ろうとしないのであろうか。つねに祈り、忠実に見張っていなければ、わたしたちは次第に不注意になって、正しい道からそれる危険がある。敵は恵みのみ座への道をさえぎって、わたしたちが熱心な祈祷と信仰によって、誘惑に耐えうる恵みと力を受けることができないように絶えず働いているのである。」(キリストへの道 128, 129)

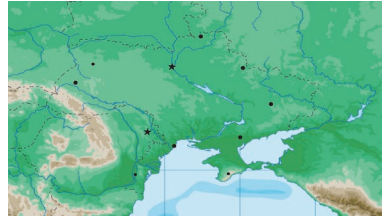
祈りのうちに、神、すなわちわたしたちの御父のみ前に来ることができるとは、なんと素晴らしい特権がわたしたちにあることでしょう。ときにはひざまずいて正式にこのお方に祈ることはできないこともあります。それでもこのお方と通信することができます。どのように、わたしたちが求めたり考えたりする以上に豊かに満たすことができるかをご存じのお方は、わたしたちの祈りを聞いて、いつもわたしたちが望むとおりとは限りませんが、このお方が最上とご覧になる通りに答えてくださいます。わたしたちが祈りを優先し、定期的な習慣とすると、植物が太陽に向くように、自然に導きを求めてこのお方に向くようになります。

「心からの祈りは、決して消えてしまうものではない。天の聖歌隊の賛美を受けておられる神は、弱々しい人間の叫びをも聞かれる。わたしたちが、へやの中で心の願いを申し上げたり、あるいは、道を歩きながら祈ったりすると、そのことばは宇宙の王のみ座にまで達する。それはだれの耳にも聞こえないであろうが、消え去ってしまったり、忙しい仕事に取りまぎれて、なくなったりしない。何も、人の心の願いを消し去ることはできない。祈りは街頭の騒音や群衆の混雑をこえて、天の宮廷へと上っていく。わたしたちが語りかけているのは、神である。そして、神は、わたしたちの祈りを聞かれるのである。」(キリストの実物教訓 155)

今期、わたしたちがこれらの教訓を研究するとき、わたしたちがもっとわたしたちの天父に信頼し、また絶えずこのお方との交わりを持つことを学ぶのを、神が助けてくださいますように。 世界総会安息日学校支部

第一安息日献金 モルドバと東ヨーロッパユニオンにおけるメディア支部のために

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ 28:19, 20)。



イエスの任命を覚え、モルドバとウクライナにある諸教会では、福音はわたしたちの利用できるあらゆる手段を使って宣布されるべきだと認識しています。今日わたしたちはインターネットや電子メディアが、わたしたちの地域で多くの人々のための主な情報源となっている世界に生存しています。

この現実を踏まえ、2012 年 9 月 17 日に、モルドバのキシナウにおいて小さなスタジオが働きを開始しました。ここでわたしたちはインターネットで発行するビデオを録画しています。この期間に、ルーマニア語とロシア語で 650 以上のビデオが録画されました。ロシア語は、ユーラシア大陸でもっとも広く主言語として使われていること、またヨーロッパでもっとも広く母国語として使われている言語として選ばれました。およそ 3 億人がロシア語を自分の第一、あるいは第二言語として使用しています。

ウクライナでわたしたちは 2012 年来、自分たちの YouTube チャンネル SDARM-UA を通じて、霊的な集会を放送してきました。2000 以上のビデオがこのチャンネルで発行されてきました。これには健康的な生活、伝道や教理的な主題、改革の歴史、青少年向けのトピックスに関する講義や、またクリスチャン音楽が含まれています。わたしたちはまた聴覚障害者のために安息日聖書教科や説教を発行しています。また今度はオーディオやビデオのかたちで、未信者のための伝道ビデオや聖書講座を発行するためのウェブサイトを作ろうと計画しています。またさまざまな年齢層のためにインターネットを通じて放送するインターネットラジオチャンネルを開設するというプロジェクトもあります。

これらのプロジェクトを進めるために新しいスタジオを作り、追加して機器や照明が必要です。しかし、わたしたちの資金は限られています。そこで皆さんに、世界中の親愛なる兄弟姉妹方にこの働きにおいてわたしたちを支援して下さるようお願いする次第です。この働きの資金作りのために惜しみなくわたしたちを助けて下さる皆さんに心よりお礼申し上げます。

モルドバと東ヨーロッパユニオンのメディア伝道支部

祈りとは何か？

「主よ、わたしの言葉に耳を傾け、わたしの嘆きに、み心をとめてください。わが王、わが神よ、わたしの叫びの声をお聞きください。わたしはあなたに祈っています。」(詩篇 5:1, 2)

「祈りとは、友だちに語るように、心を神に打ち明けることである。」(キリストへの道 126)

推奨文献： キリストへの道 126-144

日曜日

7月1日

1. 神に語る

- a. わたしたちのはじめの両親は、神とどのように語りましたか。そして、この通信は罪によって、どのように妨げられましたか (創世記 1:27-30; 3:8-10; テモテ第一 2:5)。

「アダムの不法後、主はもはや人と直接語られなかった。人類はキリストのみ手に渡されて、世に対するすべての通信はこのお方を通してなされた。」(クリスチャン教育の基礎 237)

- b. 神は罪人である者が、なお個々にご自分と自由に通信ができるよう、どのような特権を備えてくださいましたか (ヨハネ 16:23 (下句), 24; マタイ 7:7, 8)。

「祈りは魂の呼吸である。それは霊的な力の秘訣である。他の恵みの手段に替えて、魂の健康を維持することはできない。祈りは、心を命の泉にじかに接触させ、宗教的な経験の筋や筋肉を強める。祈りの運動を怠ったり、祈りにたずさわるのが発作的で都合の良い時折であったりすると、あなたは神を手放してしまう。霊的な機能はその活力を失い、宗教経験は健康と活力に欠ける。……

わたしたちがイエスのようにになりたいと願うのはこのお方を眺めている時だけであり、このお方の義に飢え渇くのは、その義を見ている時だけである。そしてわたしたちが熱心な祈りのうちに求める時にのみ、神はわたしたちの心の願いをかなえてくださるのである。

神の使命者たちは、もし自分たちの働きにおいて成功したければ、このお方と共に長くともまっていなければならない。」(福音宣伝者 254, 255)

2. 友情に欠かせないコミュニケーション

- a. 神はあなたにご自分の友となってほしいと願っておられます。この関係の基礎にはどの3つの側面がありますか(ヨハネ 15:13-15)。

「わたしたちが形成するすべての交わりは、たとえ限られていたとしても、わたしたちに何らかの感化を及ぼす。わたしたちがその感化を受ける程度は、その親密さの度合い、交わりの不変性、そして自分の交わっている相手に対する愛情や崇敬の念によって決まる。こうしてキリストを知り、交わることによって、わたしたちはこのお方、すなわち傷のない模範であられるお方に似た者となるのである。

キリストとの交わり—なんと言い尽くせないほど貴重なものであろう!もしわたしたちが求めるならば、もしわたしたちがそれを得るためにはどんな犠牲でも払うならば、そのような交わりを楽しむのがわたしたちの特権なのである。」(教会への証 5巻 222, 223)。

- b. 神はどれほど多くの人々に、この関係を提供しておられますか(ヨハネ 3:16)。友情についての神の申し出を受け入れた人の名を挙げなさい(ヤコブ 2:23)。
- c. 友情は通常、どのように始まりますか(箴言 18:24)。神への従順が、このお方との友情の証拠である一方(ヨハネ 15:14)、このお方との友情を築くためには、どの行動が不可欠ですか(ピリピ 4:6)。

「わたしたちの天父は、満ちみちた祝福をわたしたちに与えたいと待っておられる。限りなき愛の泉のほとりで思う存分飲むことは、わたしたちの特権である。それなのにわたしたちが少ししか祈らないのは、なんと不思議なことであろうか。神は、その子らのもっともつましい者であっても、心からの祈りにはいつでも耳を傾けようとしておられる。それにもかかわらず、わたしたちの方でわたしたちの要求をなかなか神に告げようとしないのである。神は、限りない愛をもって人類をみ心にかけ、いつでもわたしたちが求めたり思ったりする以上に与えようとしておられるのに、誘惑にさらされているあわれな無力な人間があまりにも祈らず、あまりにも信仰がないのを見て、天使たちはいったいどう思うことであろう。天使は神のみ前にひざまずき、神のみそばにはべることを好み、神と交わることをこの上ない喜びとしている。それなのに、神のほか与えることのできない助けを最も必要としている地上の子らが、聖霊の光も神の臨在も仰がず、満足して日を送っているように思われるのである。」(キリストへの道 128, 129)

3. 自ら完全に従う

- a. イエスは同じ困難のために、ゲッセマネで何度祈られましたか。このお方の祈りの言葉は変わりましたか (マタイ 26:39, 42, 44)。

「三度、イエスはその祈りを口にされた。三度、人性は最後にして最高の犠牲の前にひるんだ。しかしま人類の歴史が世のあがないの主の前に現われる。律法を犯した者たちは、放っておけば滅びなければならないことを、主はお知りになる。主は人類の無力をさとられる。主は罪の力をお知りになる。滅びる運命にある世のわざわいと嘆きが主の前に現われる。主は、世のさし迫った運命を見て決心される。ご自分がどんなに犠牲を払ってでも、主は人類を救おうとされる。滅びつつある幾百万の人がイエスを通して永遠の生命を受けられるように、イエスは血のバプテスマを受け入れられる。主が純潔と幸福と栄光に満ちた天の宮廷を去られたのは、失われた一匹の羊、罪とがによって墮落した一つの世界を救うためであった。だから主は、ご自分の使命から離れようとなさらない。イエスは、罪を犯した人類のためにあがないの供え物となられるのである。いまイエスの祈りには、『この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように』と、服従することだけが表明される (マタイ 26:42)。」(各時代の希望下巻 182, 183)

- b. イエスはどのように御父に自ら従われましたか (マタイ 26:39 (下句))。御父はこのお方を十字架から救うためにイエスの祈りにお答えになりましたか (45, 46 節; ローマ 8:32 (上句))。
- c. イエスが屈服された祈りから、わたしたちは何を学ぶことができますか (ヤコブ 4:6-8)。

「わたしたちが自己を十字架につけることに服するのは、大変なことである。しかしこの働きがすべて神に、すなわちわたしたちの弱さもわたしたちの罪深さもご存じのお方に服されるなら、このお方は望ましい結果をもたらすのにまさに最善な方法を取ってください。エノクが神と共に歩んだのは、継続的な闘いと単純な信仰を通してであった。わたしたちもまったく同じようにすることができる。」(ビュ・アンド・ハルド 1886 年 6 月 22 日)

「もし人が聖霊の支配に服するなら、主はご自分の分を果たしてください。もしわたしたちが体、魂、そして霊を神に捧げるなら、このお方はちょうど言われたとおりになさるのである。すなわち、このお方は勤勉にご自分を求めるすべての人によって見いだされるであろう。」(原稿リ-ス 10 巻 96, 97)

4. 困難な時に辛抱強く嘆願する

- a. ヤコブは自分がパレスチナにある父親の家に戻っているときに、自分の兄エサウが400人を連れて自分に向かってこうとしていることを聞き、何を祈りましたか（創世記 32:9-11）。
- b. エサウになだめるための贈り物を届けさせた後、ヤコブは再びどのように神の前に自分の恐れと心配を置きましたか（ホセア 12:4）。ヤコブはどのような辛抱強さと決意を表しましたか（創世記 32:24-31）。

「ヤコブは家族の者たちに川の浅瀬を渡らせ自分はひとりであとに残った。彼は、その夜祈り明かすことにし、神と自分だけになりたいと思った。神は、エサウの心を和らげることがおできであった。ヤコブは、神に頼るほかなかった。」（人類のあけぼの上巻 214）

- c. 神は、ヤコブの祈りに応えて、どのようにヤコブとエサウの両者とも変えてくださいましたか（創世記 32:31; 33:4）。

「欺瞞によって長子の特権を獲得するという罪にヤコブを陥れた誤りが、彼の前にはっきりと示された。彼は、神の約束に信頼せず、神が、ご自分の時と方法によって達成しようとされることを、自分の努力で実現させようとした。彼が許された証拠として、彼の名が、彼の罪を思い起こさせるものから、勝利を記念する名に変えられた。『あなたはもはや名をヤコブ〔おしのける者〕と言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との、力を争って勝ったからです』と天使は言った（創世記 32:28）。ヤコブは、彼の魂が願い求めた祝福を受けた。……

ヤコブが天使と格闘している間に、もうひとりの天使がエサウのところに送られた。エサウは夢のなかで、父の家から二十年の間離れて暮らした弟を見た。また、彼が母親の死を知って、どんなに悲しむかを見た。そして彼が、神の軍勢に囲まれているのを見た。エサウは、この夢を兵卒たちに語った。そして、彼の父の神がヤコブと共におられるから、彼に害を加えないように命じた。」（同上 216）

5. 真の交わりは生涯を変える

- a. 神はわたしたちについて何をご存じですか（マタイ 6:8（下句））。わたしたちの最大の必要は何ですか（エゼキエル 36:26, 27）。

「わたしたちに必要な変化は心の変化である。そしてそれはただ個人的に神の祝福を求めることによって、このお方にそのみ力を嘆願することによって、熱心にこのお方の恵みがわたしたちに及び、わたしたちの品性を変えられるように祈ることによってのみ得ることができる。これこそ、わたしたちが今日必要としている変化である。そしてこの経験を得るために、わたしたちは辛抱強い精力を働かせ、心からの熱心さを表すべきである。」（*セレクトド・メッセージ* 1 巻 187）

- b. わたしたちが祈る前に、このお方には用意された答えがあるというどの保証がありますか（イザヤ 65:24; マタイ 6:8）。祈りにおいて神のご目的は何ですか（ヨハネ 14:13, 14）。

「祈りとは、友だちに語るように、心を神に打ち明けることである。これはわたしたちがどんなものであるかを神に知らせる必要があるからではなく、わたしたちが神を受け入れるのに必要だからである。祈りは、神をわたしたちにまで呼びおろすのではなく、わたしたちを神の許へ引き上げるのである。」（*キリストへの道* 126, 127）

「祈りは神に何か変化をもたらすために意図されているのではない。それはわたしたちを神への調和へ至らせるのである。それは義務の代わりとはならない。」（*ユース・インストラクター* 1898 年 8 月 18 日）

個人的な復習問題

1. 祈りを通してわたしたちが神との習慣的な交わりを維持しないとき、わたしたちに何が起こりますか。
2. 神との友情を発達させるために、なぜ祈りが重要不可欠なのですか。
3. ゲッセマネの園で、イエスが御父のみ旨に服されたときのこのお方の経験を述べなさい。
4. ヤコブは天使と格闘したときに、だれに祈っていたのですか。
5. 神はすでにわたしたちについてすべてをご存じであるのに、なぜこれほど祈る必要があるのですか。

ダビデの祈りの生涯

「民よ、いかなる時にも神に信頼せよ。そのみ前にあなたがたの心を注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。」(詩篇 62:8)

「ダビデの祈りは絶えず神に向けられていた。彼は神に信頼を置いた。そして彼は神のみ前に完全な道を歩んだ。」(サインズ・オブ・タイムズ 1888 年 8 月 17 日)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 414-430

日曜日

7月8日

1. 迫害されているときに祈る

a. ダビデはサウルにどのように扱われましたか(サムエル記上 19:9, 10; 23:7, 8)。

「ダビデは、サムエルの死後数か月の間、平和に過ごすことができた。彼はふたたび、ジフ人の人里離れたところへ行った。しかし、ジフ人たちは、王の恵みを得ようと思って、ダビデの居どころを王に知らせた。この知らせによって、今までサウルの心の中に眠っていた悪魔的怒りが燃え上がった。サウルはまたもや兵隊たちを召集して、ダビデのあとを追った。しかし、味方の斥候は、サウルがふたたび追跡していることをダビデに知らせた。」(人類のあけぼの下巻 352)

b. ダビデはサウルに追跡されているときに、何を祈りましたか。ダビデはどのように自ら神に服しましたか(詩篇 7:1-5, 17)。

「サタンの力が制限されるのは、ただキリストを通してのみである。これこそ、すべての人が理解すべき重大な真理である。サタンは毎瞬いそがしく、食い尽くすべき者がいないかを探してあちらこちら地を縦横無尽に歩き回っている。しかし、信仰の熱心な祈りは、彼の最強の努力を挫折させるのである。そのとき、『信仰のたて』を取りなさい、兄弟方よ、『悪しき者の放つ火の矢を消すことができる』ように。」(教会への証 5 巻 294)

2. ダビデの墮落

- a. ダビデの品性について、聖書は何と述べていますか（サムエル記上 13:13, 14; 列王紀上 11:38）。

「[ダビデ] が、神のみこころにかなった人だと言われたのは、彼が神の指示に従って歩んでいたときのことであった。彼が罪を犯したときに、悔い改めて、主に立ち返るまでは、そうではなかったのである。」（人類のあけぼの下巻 423）

「ダビデが神に愛されていたのは、彼が完全な人であったからではなく、彼が神の表明されたみ旨に対する頑固な抵抗を抱いていなかったからである。彼の精神は、譴責に対して反逆のうちに立ち上がることがなかった。……

ダビデは大いに誤った。しかし、彼は全くそれと同じくらい大いに低くされ、彼の悔悟は、彼の罪同様に深かった。自分の罪を自覚したときにダビデほどへりくだった人はかつていなかった。彼は、いつも誘惑に抵抗することにおいてではなかったが、魂の悔悟とまじめな悔い改めを表すことにおいて、自ら強い人であることを表した。神はご自分の預言者を通して厳しい譴責をお与えになったが、彼は決して神への信頼を失わなかった。彼には神の預言者に対する憎しみはなかった。彼はまた、自分が愛し、仕え、尊んだ神の憐れみにより頼んだがゆえに愛されたのである。」（パンフレット 28 1890 年 16）

- b. ダビデは自分の生涯において、どの罪を隠そうとしましたか（サムエル記下 12:9）。
- c. 自分の罪が知られたとき、彼の反応は何でしたか。彼は自分が有罪であることを、どのように認めましたか（サムエル記下 12:13; 詩篇 51:3, 4）。

「ダビデの生涯の中のこのできごとは、悔い改める罪人にとって、非常に重大である。これは、人類の苦闘と誘惑、そして、神に対する悔い改めと、われらの主イエス・キリストに対する信仰に関して与えられた最も感銘深い例の一つである。これは、各時代を通じて、墮落して罪の重荷にあえぐ魂を鼓舞してきたのであった。罪に負け、今にも絶望に陥ろうとした神の子供たちの多くは、ダビデが罪に苦しんだとは言え、真心からの悔い改めと告白によって、神に受け入れられたことを思い出したのである。そして、彼らもまた勇気づけられて、悔い改め、神の戒めの道を歩もうと、ふたたび試みたのである。」（人類のあけぼの下巻 429, 430）

3. 許しを嘆願する

- a. ダビデは自分の罪を告白した後、どの二つのことを嘆願しましたか（詩篇 51:1, 2; ヨハネ第一 1:9）。

「他人に対してなされた悪はみな、傷つけられた者から神へと戻っていく。そのため、ダビデは許しを、祭司からではなく、人の創造主に求めるのである。彼は祈る、『神よ、あなたのいつくしみによって、わたしをあわれみ、あなたの豊かなあわれみによって、わたしのもろもろのところがぬぐい去ってください。』」（教会への証 5 巻 639）

- b. 不純の座はどこにありますか（エレミヤ 17:9; マルコ 7:21-23）。

「あなたがたのうち多くの者は、心が清められていないときに、頭の中の概念、外側の宗教は保つことができるかもしれない。神は心をご覧になる。『すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない』。このお方は内側における真理以外のもので満足なさるであろうか。すべての真に改心した魂は、肉の思いが征服された間違えようのないしるしを帯びるのである。」（同上 1 巻 163）

- c. ダビデのどの祈りを、わたしたちは日ごとに繰り返すべきですか（詩篇 51:10-12）。

「多くの人々は真の基礎なく想像上の希望により頼んでいる。泉が清められていないのである。であるから、その泉から出る流れも清くない。泉を清めなさい。そうすれば、流れも清くなる。もし心が正しいならば、あなたの言葉も、衣服も、あなたの行動もみな正しいものとなる。真の信心が欠落している……

わたしはこの恵みをどのようにして得ることができるかを見た。あなたの密室へ行きなさい。そしてそこで一人で神に嘆願しなさい。『神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。』真剣で、誠実でありなさい。熱心な祈りは多くのことを成し遂げる。ヤコブのように、祈りのうちに格闘しなさい。身を悩ませなさい。イエスは、園で、大きな血の汗をしたたせられた。あなたは努力しなければならない。あなたが神のうちに強くなったと感じるまで密室を後にしてはならない。それから、見張りなさい。あなたが見張り祈っている限りはこれらのからみつく悪を押さえておくことができる。そして神の恵みがあなたのうちに表れることができ、また表れるようになるのである。」（同上 158）

4. 神への感謝を表現する

a. 神の祝福に関して、ダビデは何を認めましたか（歴代志上 29:11-14）。

「神はわたしたちのすべての道中に祝福をまき散らされた。……わたしたちはもし自分が選ぶなら、一步ごとに泣き、うめき、嘆き、つまづくこともできる。もしくは、貴重な香り高い花々を集め、主のいつくしみ深さのゆえに、主のうちにあって喜び、わたしたちの天への道を非常にこちよいものとすることもできるのである。」（わたしたちの高い召し 245）

「神がご自身をわたしたちにお与えになるのは、人類への奉仕のために自分を神にささげるときである。

自分の心と生活のうちに神の祝福の流れが他の人々に流れ出るための場所を与える者はだれでも その人自身、豊かな報いを受けないではない。」（祝福の山 100）

b. ダビデは神についての自分の気持ちのいくつかをどのように表現しましたか（詩篇 31:19-23; 57:10）。

「感謝と讃美の歌が闇の中にいる人々によって聞かれるべきである。福音の良き知らせのために、その約束と保証のために、わたしたちは他の人々に善を行うよう努めることによって、自分たちの感謝を表現すべきである。この働きをなすと、天の義の光線が、弱り、困惑し、苦しんでいる魂にもたらされる。それは疲れて渴いた旅人のために開かれた泉のようなものである。憐れみの一つ一つのわざ、愛の一つ一つのわざのあるところに、神の使たちがいる。」（教会への証 9 巻 31）

c. 今日、わたしたちはその他、何を感謝することができますか（詩篇 103:10-14; エレミヤ 31:34（下句））。

「私たちは自己を忘れ、どんな小さなことについても他人から与えられた好意に感謝の気持ちを表わす機会を絶えず求め、他人を喜ばせ、やさしい親切な行為と小さくても愛を示す行ないをすることによって、他人の悲しみと重荷を軽くし、救いの機会をうかがうようにしなければならない。このような思慮深い礼儀正しきは、まず家族の中から始めて家族以外の人へひろげてゆけば、生活の全体を幸福なものにする。そしてこれらの小さなことを無視することは生活の全体をにがく悲しいものにするのである。」（アドベソフ・ホーム 487）

5. 救出を求めて祈る

- a. ダビデは、どのような言葉をもって、自分を敵から救出してくださったために神を賛美していますか (サムエル記下 22:1-7, 18-20)。
- b. ダビデのように、わたしたちはどのように今日罪からの救出を祈り求めることができますか (詩篇 6:4; 25:20; マタイ 6:13)。

「罪からの救いを求めるのではなくて、苦しみを避けるために、福音を受け入れるものが多い。宗教とは、困難や試練から人間を解放するものであるかのように思っているから、しばらくは喜んでいる。彼らは生活が平穏な間は、堅実なクリスチャンらしく見えるのである。しかし、はげしい誘惑に出会うと倒れてしまう。彼らは、キリストのためにうける恥辱に耐えることができない。神のことばが、心に秘めた罪を指摘し、克己と犠牲を要求したりすると、彼らはつまづいてしまうのである。彼らの生活を徹底的に改革することは、あまりにも努力を要することなのである。彼らは、現在の不便や試練をながめて、永遠の實在のことを忘れてしまうのである。」(キリストの実物教訓 24)

「この世の祝福を祈り求めるときに、われわれの祈りに対する答えは遅れるかも知れない。あるいは神はわれわれの求めるものよりもほかのものをお与えになるかも知れない。しかし罪からの救いをもとめるときにはそうではない。われわれを罪からきよめて神の子とし、聖なる生活を送ることができるようにしてくださるのが神のみこころである。」(各時代の希望上巻 336)

個人的な復習問題

1. サタンを制限するのは何ですか。キリストはいつわたしたちを最もよく助けることができになりますか。
2. なぜ、ダビデは神に愛されたのですか。
3. わたしたちはもし清い、純潔な心を持ちたいと望むなら、どのように祈らなければなりませんか。
4. わたしたちは实际的に神にどのように感謝を表すことができますか。またその結果は何ですか。
5. わたしたちは単に困難からの救出をこえて、何を求めるべきですか。

詩篇にある祈り

「神よ、しかが谷川を慕いあえぐように、わが魂もあなたを慕いあえぐ。」（詩篇 42:1）

「わたしは神の御霊によって、詩篇の中に与えられている多くの慰めに注意を向けさせられた。……もしわたしたちの民が増し加わる信仰と祈りのうちにある可能性を自覚するならば、わたしたちの諸教会のうちに決定的な変化が起こるであろう。今、意気消沈し、悩んでいる人々は、自分たちの失望から引き上げられ、主にあって喜ぶことであろう。」（オーストラリア・ユニオン・コンフェレンス・レコード^{*} 1907 年 4 月 29 日）

推奨文献： 教会への証 8 巻 270-278

日曜日

7月15日

1. 恵みのみ座へ近づく

- a. クリスマン経験に関して、詩篇の中でダビデが表現しているいくつかの主題は何ですか（詩篇 25:16-18; 28:2, 7, 8）。
- b. 悔い改めた罪人が神の許しを求めたら、確信をもって、何を期待することができますか（詩篇 51:1-6）。

「このような悔い改めは、自分の力ではとてもできるものではない。これは天にお上りになって、人類に聖霊の賜物を与えたもうキリストによるほかないのである。

ところがここで考え違いをして、せつかく、キリストが与えようとしておいでになる助けを受けない人が多い。つまりそれらの人は、まず悔い改めなければキリストに近づけない、悔い改めは罪のゆるしをうける準備であると思っている。もちろん悔い改めただけが救い主の必要を感じるのであるから、悔い改めが罪のゆるしに先だつのは当然である。それでは罪人は悔い改めるまではイエスのもとに行かれないのであろうか。悔い改めが罪人と救い主との間の障害物となってよいものであろうか。」（キリストへの道 27, 28）

2. 神が許される時

a. どの条件の下に、罪人は神の憐れみを得ることができますか (詩篇 32:5)。

「神のあわれみをうける条件は簡単で、しかも正しく合理的である。神は、わたしたちの罪がゆるされるには、なにか面倒なことをしなければならないとは要求なさらない。長途の巡礼の旅に上ったり、痛々しい苦行をしたりして、天の神に自分がよく思われようと思ったり、罪の償いをしようとしなくてもよいのである。ただ罪を言い表わして、これを離れる者はあわれみをうけるのである。」(キリストへの道 45)

「このお方が試練や苦難を許されるとき、それは『わたしたちの益のため、そのきよさにあずからせるため』である。もし信仰のうちに受け入れるなら、非常にたくく耐えるのが困難だと思われた試練が祝福であることがわかるようになる。地上の喜びを損なう残酷な一撃が天にわたしたちの目を向ける手段となる。悲しみがイエスのうちに慰めを見出すように導かなければ、決してイエスを知るようにならなかったはずの人がどれほど多いことであろう!……

主はご自分に信頼を置くすべての人のために働いて下さる。尊い勝利は忠実な人々によって得られる。尊い教訓が学ばれる。尊い経験が実現される。……

キリストはご自分の住まいとなるまで、悔いた心を引き上げ、嘆いている魂を精錬される。」(神のむすこ娘たち 302)

b. ダビデは神に近づくときに、何をしましたか。またこのお方の答えは何でしたが(詩篇 66:17-20)。

「われわれの救い主は、悔いる心を持つ者の祈りを聞き、それに答える準備がいつでもできておられる。そして恵みと平安が、忠実な者たちの上に増し加えられるのである。主は、彼らを悩ます悪との戦いに必要な祝福を、喜んで彼らに与えて下さる。」(患難から栄光へ下巻 232)

c. どの程度まで、神はわたしたちの罪を許されますか (詩篇 103:3, 12-14)。

「神のいのちなるキリストをあなたのうちに住まわせ、あなたを通して天来の愛をあらわし、希望のない者に希望を、罪にうちひしがれた心に天の平和を与えるようにしよう。」(祝福の山 144)

3. 正しい態度

- a. ダビデはどの精神をもって、祈りのうちに主を求めましたか。彼の実際的な生活は、どのように彼の心の状態を反映していましたか（詩篇 26:2-5, 8; 119:58）。
- b. どの行動が内なる心の変化を表していますか（イザヤ 1:16, 17; エゼキエル 33:15）。

「まじめな悔い改めと改革が伴わない告白は、神に受け入れられることはできない。はっきりとした変化が生活にあらわれ、神の嫌われるすべてのものを捨てねばならない。ほんとうに罪を嘆いた結果はそうなるのである。」（キリストへの道 48）

「生ける信仰によるキリストとの結合は永続的なものである。他のすべての結合は消滅しなければならない。……しかしこの結合はわたしたちの側で何らかの代価を要求する。……そこには付着という働きと同様に、分離という痛みを伴う働きがなくてはならない。もしわたしたちがキリストとの結合に入りたいのであれば、誇り、利己心、虚無、世俗—あらゆる形態の罪—が克服されなければならない。多くの人がクリスチャン生活が嘆かわしいほど困難であると思う理由、彼らがあまりにも移り気で、あまりにも変わりやすい理由は、彼らがこれらの大事にしている偶像から自らを分離させずにキリストに付着しようとするからである。」（信仰によってわたしは生きる 221）

- c. 神はわたしたちがご自分のみ前に来る時に、どのような態度を持つよう、望んでおられますか（詩篇 95:2; 100:4）。

「神はご自分の従順な子らがご自分の祝福をわがものと主張し、ご自分のみ前に賛美と感謝をもって来ることを望んでおられる。神は命と力の泉であられる。このお方は、ご自分の戒めを守る民のために、荒野を実り多い畑にすることがおできる。なぜなら、それがこのお方のみ名の栄光のためだからである。このお方はすべての人の心に感謝を吹き込むべきことをご自分の選民のためになしてこられた。そして、あまりにもわずかな讃美しか捧げられないことはこのお方を悲しませる。このお方はご自分の民が歓喜し、喜ぶ理由があることを知っていることを示し、もっと強く表現することを望んでおられる。

神のご自分の民に対する扱いはしばしば繰り返されるべきである。どれほどしばしば、主が昔のイスラエルを取り扱われた方法のうちに、このお方によって道標が立てられたことであろう。……わたしたちはこのお方のいつくしみ深さをしばしば数え、このお方の素晴らしいみわざのためにこのお方を賛美する必要がある。」（教会への証 6 巻 364, 365）

4. 信仰と信頼

- a. どの言葉をもって、ダビデは主を信じる自分の信仰を表現しましたか（詩篇 27:1-5）。

「わたしたちの神には天地が意のままである。そしてこのお方はまさにわたしたちに何が必要であるかをご存じである。わたしたちは自分たちの前にただわずかな道しか認めることができないが、『すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない』（ヘブル 4:13）。地の散乱を超越して、このお方は御座についておられる。万物はこのお方の調査にあらわにされている。そしてこのお方の大いなる静かな永遠より、このお方のみ摂理が最善とご覧になることをお命じになるのである。

すずめ一羽でさえも、御父に気づかれずに地に落ちることはない。神に対するサタンの憎しみは、口のきけない被造物でさえ滅ぼすことを喜ぶよう導く。鳥がわたしたちを喜びの歌で楽しませるために守られるのは、ただ神の守りの保護を通してのみである。しかし、このお方はすずめでさえもお忘れになることはない。『それだから、恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である』（マタイ 10:31）。」（教会への証 8 巻 272, 273）

- b. 地上の敵が数にまさっていたときに、ダビデは神への信頼をどのように表現しましたか（詩篇 56:2, 9, 11）。

「なぜわたしたちは、自分たちに生ける救い主、すなわち光の中と同様に闇の中でもわたしたちと共に歩むことがおできになるお方がいること、そしてわたしたちがこのお方に信頼できることを示さないものであろうか。……

わたしたちは雲が自分たちと太陽の間に介入するのを見たことがあるが、二度と太陽を見ることがないのではないかと恐れて嘆いたり、荒布を着たりはしない。わたしたちはそのことに不安を表すことなく、雲が過ぎて、太陽が現れるまでできるだけ快活に待った。わたしたちの試練や誘惑においても同様である。雲がわたしたちから義の太陽の明るい光線を締め出すかのように見えるかもしれない。しかし、わたしたちは自分たちの贖い主のみ顔がいつまでも隠されてはいないことを知っている。このお方はわたしたちを愛と優しい同情をもって見守っておられる。わたしたちの信頼を投げ出さないようにしよう。それには大いなる報いが伴っているのである。かえって、雲が魂の周りに立ちこめているとき、わたしたちの目を義の太陽が見えるところに留め続け、自分たちには生ける救い主がおられることを喜ぼう。わたしたちが楽しんだ光がどれほど美しかったかを考えなさい。思いをイエスに留めておきなさい。そうすれば、光が再びわたしたちの上に輝き、憂鬱な思いは逃げ去るのである。わたしたちはキリストのうちに喜びを持ち、シオンの山への道中を歌いつつ進むようになる。」（わたしたちの高い召し 65）

5. 神は渇いている魂を満たしてください

a. わたしたちの祈りに伴っているべき熱烈さを述べなさい (詩篇 42:1-4)。

「わたしたちが陥っている気のない怠惰な習慣を捨て去り、本気で祈ろう。『義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである』(ヤコブ 5:16)。信仰は神の約束をしっかりつかみ、熱烈に自分の嘆願を訴える。しかし、魂の命が成長をやめると、外面的な献身は形式的で力のないものとなる。」(福音宣伝者 1892, 426)

b. わたしたちが試練と奮闘のただ中で神に近づくとき、わたしたちにはどの保証がありますか (詩篇 77:1, 14, 15)。

「神のみちびきのみ手を求めて手をさしのべているすべての者にとって、最も落胆している時が、神の助けが一番近い時である。彼らは自分たちの道の一番暗かったところを感謝をもってふりかえるであろう。……誘惑のたびに、試みのたびに、主はそこから彼らを、もっと固い信仰、もっと豊かな経験をもって、みちびき出される。」(各時代の希望中巻 343)

「あらゆる試練に際してわたしたちがキリストを求めるならば、キリストは助けを与えてください。わたしたちの目は打ち開かれ、そのみ言葉の中に記録されているやしの約束に気づくようになる。聖霊は悲しみを和らげる祝福をいっさい自分のものとする方法を教えてくれる。わたしたちのくちびるにあるすべての苦い水に対してそれをいやす木の枝を発見するであろう。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 225)

個人的な復習問題

1. 多くの人々はどの点において誤り、約束された祝福を受けることに失敗しますか。
2. 許しと憐れみを得るために、自己犠牲の大きな行為をする代わりに、わたしたちはどの段階を取る必要がありますか。
3. どの態度が、本物の告白をするようにわたしたちを導きますか。
4. 試練が、わたしたちの視野から義の太陽のおもてを隠すように見えるとき、わたしたちは何をすべきですか。
5. どの種類の精神をもって、神に近づくべきですか。わたしたちがこうするとき、どの約束がありますか。

黙 祷

「あなたは祈る時、自分のへやにはいり、戸を閉じて、隠れた所においでになるあなたの父に祈りなさい。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう。」(マタイ 6:6)

「神に祈りをささげるのに、不適當な時や場所はない。……雑踏した路上でも、商取引の最中でも、……神に願いをささげて導きを請うことができる。」(キリストへの道 136)

推奨文献： 国と指導者下巻 230-236

日曜日

7月22日

1. 働いているときに祈る

- a. どの知らせがネヘミヤを悩ませましたか。そして彼の雇い主に、どのようにこの悩みのことがわかりましたか(ネヘミヤ 1:2-4; 2:1, 2)。
- b. 王は何を尋ねましたか。そしてネヘミヤはどのように答えましたか(ネヘミヤ 2:4)。ネヘミヤの黙祷はどのように聞かれましたか(ネヘミヤ 2:6)。

「神の人ネヘミヤは、アルタクセルクセス王よりも大いなる神の指示を仰ぐまでは、あえて返事をしなかったのである……ネヘミヤはその短い祈りによって王の王のみ前に出て、川の水を変えるように人の心を変えることのできる力を、自分の味方にしたのである。

緊急の時にネヘミヤが祈ったように祈ることは、他の形式の祈りをする事が不可能な場合に、キリスト者が用いることができる方法である。人込みの中で労苦しながら仕事をしている人々は、神の導きを祈り求めることができる。海陸の旅をする人々も、大きな危険にさらされるときに、このようにして天の神の保護に身をゆだねることができる。突然困難や危機が訪れた場合には、彼を信じる忠実な者の呼ぶ声に答えて、いつでも来て助けるとみずから約束なされたかの助けを呼び求めればよいのである。」(国と指導者下巻 232, 234)

2. わたしたちの行動によって祈るよう求める

- a. ゲラサの地の墓に住んでいた悪鬼にとらわれた人が初めてイエスを見たとき、何をしようとしましたか (マルコ 5:5, 6)。
- b. サタンはこの人が祈るのを許さなかったので、代わりに彼の口からは何が出てきましたか (マルコ 5:7)。イエスはこの粗暴で見捨てられた人とその連れ (マタイ 8:28) のために何をなさいましたか (マルコ 5:8)。

「イエスのみことばは、この不幸な人たちの暗くなった心をさしつらぬいた。自分たちを苦しめている悪鬼から救ってくださることのできるおかたが近くにおられるということ、彼らはおぼろげながらさとした。彼らはイエスをおがもうとして地にひれふした。だがイエスのあわれみを乞おうとして彼らが口を開くと、悪鬼が彼らを通して語った。」(各時代の希望中巻 62)

- c. この二人の男の初めての黙祷の結果は何でしたか (ルカ 8:35)。悪鬼にとらわれた人々の言葉にならなかった祈りから、わたしたちは何を学ぶことができますか。

「キリストのうちに救いをみいだすことができないほどどん底まで墮落した者はなく、またそれほど悪い人間はいない。悪鬼につかれたあの男は、祈りの代りに、サタンのことばしかしゃべることができなかった。それでも彼の心の中にある無言の訴えはきかれた。困っている魂の叫びは、たとえそれがことばにならなくても、決してみすごされることはない。天の神との契約関係にはいることに同意する者は、サタンの力や自分自身の弱い性質のままにうちすてられることはない。彼らは救い主から、『むしろわが力にたよって我とやわらぎを結べ、われと平和をむすぶべし』と招かれている (イザヤ書 27:5 文語訳)。暗黒の悪霊たちはかつて自分たちの支配下にあった魂を求めて戦う。しかし神の天使たちがすぐれた力をもってその魂のために戦うのである。主はこう言われる、『勇士が奪った獲物をどうして取り返すことができるか。暴君がかすめた捕虜をどうして救い出すことができるか』……主はこう言われる、『勇士がかすめた捕虜も取り返され、暴君が奪った獲物も救い出される。わたしはあなたと争う者と争い、あなたの子らを救うからである』 (イザヤ書 49:24, 25)。」(各時代の希望上巻 323, 324)

3. 許しを求める言葉にならない願い

- a. 姦淫の場でとらえられた女は言い訳をしたり、自己を義認したりしましたか（ヨハネ 8:3-7）。
- b. イエスは彼女の罪を憎まれましたか。あなたの答えを説明しなさい（詩篇 45:7；ヘブル 1:8, 9）。

「イエスは、罪を軽く見たり、不義の意識を弱めたりはされないが、罪に定めようとしなくて、救おうとされる。世の人たちは、過失を犯しているこの女を軽蔑し嘲笑することしかしなかった。だがイエスは、慰めと望みのことばを語られる。罪のないおかたは、罪人の弱さをあわれみ、彼女に助けの手をさしのべられる……

人間は罪人を憎みながら、一方では罪を愛する。キリストは罪を憎まれるが、罪人を愛される。これがキリストに従うすべての者の精神である。クリスチャンの愛はいつも、人を非難するのに遅く、悔い改めをみとめるのに早く、人をゆるし、励まし、さまよっている者を聖潔の道に歩ませ、彼の足をそこにしっかりとどめるようにするのである。」（各時代の希望中巻 249）

- c. 許しを求めるこの女の言葉にならない要望に、イエスはどのようにお答えになりましたか（ヨハネ 8:10, 11）。

「女は、恐怖にふるえながらイエスの前に立っていた。『あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい』と言われたイエスのことばは、彼女には死刑の宣告のように聞こえた。彼女は目をあげて救い主の顔を見る勇気もなく、だまって自分の運命を待った。彼女は告発者たちが一言もいわず、あわてて立ち去るのを見て驚いた。すると『わたしもあなたを罰しない。帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように』との望みのことばが彼女の耳にとびこんできた（ヨハネ 8:11）。女の心はやわらいだ。彼女はイエスの足下に身を投げ、感謝に満ちた愛のあまり、すすり泣きながら、にがい涙とともに自分の罪を告白した。

これは彼女にとって新しい生活、すなわち神の奉仕にささげられる純潔で平和な生活の始まりであった。この墮落した魂を立ち直らせることによって、イエスは、最も苦しい肉体の病気をいやすよりももっと大きな奇跡を行われた。イエスは、永遠の死にいたる心の病気をなおされたのである。悔い改めたこの女は、キリストの最も忠実な信者の一人となった。自己犠牲的な愛と奉仕をもって、彼女は自分をゆるしてくださったイエスのあわれみに報いた。」（同上 248）

4. 必死の行為を通して語る

- a. 哀れな中風患者は、どれほどイエスに会いたいと思っていましたか (ルカ 5:18, 19)。

「わたしは長年自分の肢体を使ったことのなかった中風患者について述べよう。そこに彼はいた。祭司たち、役人たち、学者たちが彼を診断して、希望がないと宣告した。彼らは彼に自分自身の罪によってこの状態をもたらしたのであり、彼に希望はないと告げた。しかし、力あるみわざをなさっているイエスというお方がいるという言葉が彼に伝えられた。彼は病人を癒し、死人をよみがえらせさえたということであった。『しかし、わたしはどのようにして彼の許へ行くことができるだろうか』と彼は言った。

『わたしたちがあなたをイエスの許まで運びましょう』と彼の友人たちが答えた。『彼の前まで。わたしたちはこのお方がこのような場所にまで来てくださることを聞きました』

こうして彼らはこの希望のない男を連れて、イエスがおられると知っていた場所まで担いできた。しかし群衆がイエスのおられた建物を密集して囲んでいたため、彼らが戸のところまで行ける可能性はなかった。彼らはどうするであろうか。中風患者は屋根に穴をあけて、タイルを外し、自分を屋根から下ろしてくれるように提案した。」(信仰と行い 67)

- b. イエスは中風患者の言葉にならない願いに、どのように応じられましたか (ルカ 5:20)。イエスはどのように、この人の思想ばかりでなく、すべての人の思想をお読みになることができることを表されましたか (ルカ 5:21-23)。

「イエスは罪に病んだ魂がまさに何を必要としていたかをご存じであった。このお方は彼が自分自身の良心のために苦しんできたことをご存じであった。そのためにこのお方は『あなたの罪は許された』と言われた。彼の思いになんという安堵がもたらされたことであろう!彼の心になんという希望が満ちたことであろう!」(同上)

- c. この男を実際に癒したことは、イエスが持つておられた力について、何を示していましたか (ルカ 5:24-26)。

「創造のときに『主が仰せられると、そのようになり、命じられると、堅く立った』が、その主が罪とがのうちに死んだ魂にいのちを語られたのであった (詩篇 33:9)。肉体のいやしは、心を新たにした力の証拠であった。キリストは中風患者に『人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために』起きて歩めとお命じになった (マルコ 2:10)。」(各時代の希望上巻 341)

5. 触ることによって祈る

- a. 12年間も深刻な病気に苦しんだ後、女はイエスに癒しを求める内気な要望を表現することをどのように選びましたか（マルコ 5:25-29）。

「黄金の機会が訪れた。彼女は偉大な医者の前にいた！しかし、混乱のただ中で、彼女の声はこのお方に聞こえないであろうし、このお方のお姿が通り過ぎるのを目見るのが精いっぱいであろう。自分の病気からの救済の唯一の機会を失うことを恐れて、彼女は自らに、もしこのお方の衣にでも触れれば癒されるだろうと言いながら前に押し進んだ。彼女はこのお方が通り過ぎるときに機会をとらえ、前に手を伸ばし、このお方の衣のすそにかろうじて触れた。しかし、その瞬間、彼女は自分の病が癒されたことを感じた。ただちに健康と力が、弱さと痛みにとって替わった。彼女は自分の生涯のすべての信仰を、自分を癒したその一触に集中させたのであった。」（預言の霊 2 巻 320）

- b. イエスはそのとき、どのように彼女の言葉にならない信仰の祈りを公に認められましたか（マルコ 5:30-34）。このことはわたしたちに信仰について、何を教えますか。

「イエスは信仰の黙祷にお答えにならないようなことはない。神を単純にその言葉通りに信じ、救い主とつながるために手を伸ばす人は、見返りにこのお方の祝福を受けるのである。」（同上 322）

個人的な復習問題

1. わたしたちが困窮しているとき、神のみ前にひざまずくことができなくても、どのような特権がありますか。それをどのようにしてできますか。
2. イエスは、正直な心から上る秘められた黙祷にお答えになりますか。
3. わたしたちの行動が祈りとなることが出来ますか。どのようにですか。
4. わたしたちはみなどのような種類の癒しを必要としていますか。イエスはどれほどわたしたちを助けたいと願っておられますか。
5. イエスは口を通して出てきた言葉に従って行動されますか。それとも、心の静かな思いに対しても同様ですか。

第一安息日献金

伝道学校と教育プログラムのために

「神のみかたちにかたどってつくられた人間のひとりびとりに、創造主の能力に近い能力—個性、すなわち、思考し行動する能力がさずけられている。この能力が発達してはじめて、人は、責任を負う者となり、事業の指導者となり、他人に感化を及ぼす者となる。この能力を発達させること、すなわち青年たちが、ただ単に他人の思想を反映する者とならないで、自ら思考する者となるように、彼らを訓練



することが真の教育の働きである。……学校は、弱々しい知識人ではなく、たくましい思考力と行動力をもった青年、境遇の奴隷とならないで、かえってこれを征服する青年、広い心とはっきりした考え方と強い信念をもった青年—そういう人間を、社会に送り出すことができる。」(教育 6, 7)

このような施設の設立を支援することが教育支部の目的です。わたしたちの子供たちのために、かつてなかったほど一般教育のための学校や伝道学校が必要とされています。一世紀以上も前に、主の使命者は記しました。

「現在都市を去ることのできない人々の子供たちを救い、教育するために、できることがもっとたくさんある。これはわたしたちが最大の努力をしなければならぬ事柄である。都市に住む子供たちのために教会小学校が建てられなければならない。そしてこういった小学校と関連して、必要なところには、さらに上級の勉強を教える準備がなされなければならない。」(家庭の教育 324, 325)

「安息日を守る人が数人いるところではどこでも、親たちは協力して、子供たちを教育できる学校を建てるようにしなければならない。そして、献身した伝道者として、子供たちが伝道者となるよう教育してくれるクリスチャン教師を、やとわなくてはならない。……

もし親がこれらの小さな教育センターの重要性を悟り、主がこの時代になされることを望んでおられる働きに協力するならば、わたしたちの子供たちに対する敵の計画は挫折させられるであろう。」(同上 328)

この安息日に世界中のすべての諸教会においてこの働きを支援するために、惜しみなく献金を捧げてくださいますようお願いします。

教育支部からの皆さんの兄弟より

個人的な祈り

「何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。」(ピリピ 4:6)

「密室の祈りは内なる命を支える。神を愛する心はこのお方と交わることを愛し、聖なる信頼のうちにこのお方により頼むのである。」(わたしたちの高い召し 130)

推奨文献： キリストの実物教訓 114 ～ 129

日曜日

7月29日

1. 祈りにおける態度

- a. わたしたちは祈りにおいてどの姿勢を守るべきですか(詩篇 95:6; エペソ 3:14)。
- b. どこで、どのようにわたしたちは個人的な祈りを捧げるべきですか(マタイ 6:6)。

「祈りが思いの特別な働きではないうちは、魂が繁栄することは不可能である。家族と公の祈りでは十分ではない。密室の祈りが非常に重要である。魂は一人だけで、綿密に調査する神の御目の前にあらわにされ、すべての動機が精査される。密室の祈り!なんと貴重なことであろう!魂が神と交わるとは!密室の祈りは祈りを聞かれる神によってのみ聞かれるべきである。好奇心をもった耳がそのような嘆願の心労を受けてはならない。密室の祈りでは周りの状況、興奮から解放されている。静かに、しかし熱心に、神を求める。密室の祈りはしばしば、大きな声を出す祈りによってゆがめられ、そのうるわしい意図が失われる。穏やかで静かな神への信頼と信仰、すなわち低くつつましい音調へ消えていく代わりに、大声を張り上げ、興奮が助長されて、密室の祈りはその和らげる聖なる感化力を失う。感情の嵐、言葉の嵐が、魂に語りかける静かな細い声を聞き分けられないようにする。それは魂が密室の真実な心からの祈りに従事しているときに聞き分けられるのである。」(教会への証 2 卷 189, 190)

2. とりなしの祈り

- a. ダニエルがエルサレムの 70 年の荒廃の預言が終結に近づきつつあることを考えたとき、何について祈るように鼓舞されました（ダニエル 9:3-19）。ダニエルはだれが有罪だとみなしましたか。だれを責めましたか。

「ダニエルは確かな預言の言葉に基づいた信仰をもって、これらの約束が速やかに成就されるように主に嘆願した。ダニエルは神の誉れが保たれるように嘆願した。彼はその訴えのなかで、神のみこころに従わなかった人々と自分とを全く同じ状態におき、彼らの罪を自分自身の罪として告白した。……

ダニエルは長い間神に仕え天使によって『大いに愛せられている者』と呼ばれたにもかかわらず、彼は今、神の前に罪人として立ち、彼の愛する民の大いなる必要を訴えたのである。彼の祈りは簡単でありながら雄弁で、しかも熱烈極まるものであった。彼は嘆願して言った。」（国と指導者下巻 163）

「ダニエルの祈りを聞かれた主は、あなたがダニエルのようにこのお方に近づくなら、あなたの祈りを聞いて下さる。」（天国で 75）

- b. ダニエルの祈りに対する答えは何でしたか（ダニエル 9:20-23）。
- c. 神は、ご自分の御霊によって、どのようにわたしたちのためにとりなしてくださいますか（ローマ 8:26）。神はわたしたちに他の人々のために何をしてほしいと望んでおられますか（ヤコブ 5:16）。

「キリスト、わたしたちの仲保者と、聖霊は絶えず、人のためにとりなしておられる。しかし、聖霊がわたしたちのためにとりなされるのは、キリストがわたしたちのために世のはじめから流されたご自分の血を提示してとりなされるのとは異なる。御霊はわたしたちの心に働きかけ、祈り、悔い改め、賛美と感謝を引き出されるのである。わたしたちの唇からあふれる感謝は、御霊が聖なる記憶のうちに魂の琴線を奏で、心の調べを目覚めさせた結果である。」（SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1077, 1078）

「人と人との訴え、嘆願、懇願は人を動かし、国事を支配するのに役割を果たす。しかし、祈りは天を動かす。祈りの答えによってもたらされるその力だけが、人々を天の知恵に賢くし、御霊と一致して働くことができるようにし、平和の絆で共に結び合わせるのである。祈り、信仰、神への信頼は、人の計算をその真の価値—無一にする神聖な力をもたらしするのである。」（天国で 75）

3. 聖潔を求める祈り

- a. イエスは、わたしたちが罪人であることを認めるとき、どのように祈るよう教えてくださいましたか (ルカ 18:13)。

「神はわたしたちの罪のゆえにわたしたちを見放すことはない。わたしたちは間違いを犯し、御霊を悲しませるかもしれないが、わたしたちが悔い改めて、悔いた心でこのお方の御許へ帰るとき、わたしたちを追い返したりはなさらないのである。」(信仰と行い 35)

「わたしたちが窮地にあるわたしたちを憐れみ、聖霊によって導いてくださるよう嘆願するとき、このお方は決してわたしたちの祈りを退けられない。」(神の驚くべき恵み 207)

- b. 罪人として、わたしたちはどの態度を拒否しなければなりませんか (ルカ 18:11, 12)。

「自己義はこの時代の危険である。それは魂をキリストから引き離す。自分自身の義に信頼している人々は、いかにして救いがキリストからくるかを理解することができない。彼らは罪を義と呼び、義を罪と呼ぶ。彼らは不法の悪を正しく認識することも律法の恐ろしさを理解することもない。なぜなら、彼らは神の道徳的な標準を尊ばないからである。」(信仰と行い 96)

- c. すべての正直な告白の祈りに対する神の約束は何ですか (ルカ 18:14; ヨハネ第一 1:9)。

「敵があなたの所へ来て言うであろう、『あなたが祈っても無駄である。あなたは悪事を行ったのではなかったか。あなたは神に対して不法を行ったのではなかったか。あなたは自分の良心を犯してきたのではなかったか』。彼にこう答えなさい、『そのとおりである。しかし、キリストはわたしに祈るように命じられた。このお方は言われた、『もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる』。』」(ハ・イブル・エコー 1893 年 2 月 15 日)

「砕けた心をもって、神に来るものは、だれ一人しりぞけられることはない。心からの祈りは、決して消えてしまうものではない。天の聖歌隊の賛美を受けておられる神は、弱々しい人間の叫びをも聞かれる。わたしたちが、へやの中で心の願いを申し上げたり、あるいは、道を歩きながら祈ったりすると、そのことばは宇宙の王のみ座にまで達する。それはだれの耳にも聞こえないであろうが、消え去ってしまったり、忙しい仕事に取りまぎれて、なくなったりしない。何も、人の心の願いを消し去ることはできない。祈りは街頭の騒音や群衆の混雑をこえて、天の宮廷へと上っていく。わたしたちが語りかけているのは、神である。そして、神は、わたしたちの祈りを聞かれるのである。」(キリストの実物教訓 155)

4. 知恵を求めて祈る

- a. もしわたしたちが求めさえすれば、神はわたしたち一人びとりに何を提供して下さいますか。わたしたちはどのように求めるべきですか（ヤコブ 1:5, 6）。

「わたしたちは、知恵を求めて、何も地の果てまで行く必要はない。神は、そば近くにおられる。成功するか否かは、あなたが今持っている能力とか、または、将来の能力によるものではない。それは、主があなたのために何をなし得るかということによる。わたしたちは、人間のできることには、信頼をおかないで、信じるすべての魂のために、神がおできになることにもっともって信頼をおかなければならない。神は、あなたが信仰によって、神にたよることを望んでおられる。神は、あなたが、神に大きなことを期待することを望んでおられるのである。神は、霊的のものと同様に、この世のものに対する理解をも与えようと望んでおられる。神は、知性を鋭敏にすることがおできになる。また、手腕と技巧とを与えることがおできになる。あなたの才能を大いに働かせて、神に知恵を祈り求めなさい。そうすれば、知恵は与えられるであろう。」（キリストの実物教訓 125）

- b. 神の知恵はわたしたちの周囲にいる人々からわたしたちをどのように分けますか（詩篇 119:97-100; 申命記 4:5-9）。

「神の自然の法則に従うことによって地がその宝をうみ出すように、神の道德律に従うことによって民の心は神のご品性を反映できるのであった。異邦人も、生ける神に仕えてこれを拝する者たちの優越を認めることであろう。」（キリストの実物教訓 267）

- c. わたしたちはどのように知恵を求めて調べるべきですか。神はわたしたちがご自分の知恵を受けるために、どの二つの要求をわたしたちの前においておられますか（箴言 2:1-6）。

「へりくだった教えを受ける精神で聖書を研究するとき、知性を発達させ、強めずにはおかぬ。み言葉の中に表されている神の知恵とご目的をもっともよく知るようになる人々は、知力の強い男女になる。そして彼らは偉大な教育者イエス・キリストと共に効果的にはたらく働き人となるのである。」（クリスチャン教育の基礎 432）

5. 感謝をもって祈る

- a. わたしたちは個人的な祈りにおいて、しばしば何を忘れますか（ピリピ 4:6）。

「わたしたちの祈りは、ただ求めること、与えられることだけであってはならない。また自分の欠乏ばかり考えていて、受けた恵みを忘れることがないようにしよう。わたしたちは祈ることがほんとうに少ない上に、また、感謝の念に乏しい者である。絶えず神のあわれみを受けていながら、なんと感謝を言い表わすことが少なく、神がわたしたちのためになされたことを賛美することのなんと少ない者であろうか。」（キリストへの道 142）

- b. 毎日、わたしたちは神に何を感謝することができますか（詩篇 68:19; 哀歌 3:22-25）。

「もしわたしたちの感覚が罪とサタンが絶えずわたしたちに提示している暗い光景を熟考することによって鈍くなっていなかったならば、感謝の熱烈なたえざる流れが、わたしたちの心から、わたしたちにはまったく受ける資格のない恩恵を日々わたしたちに与えて下さるお方へと向かうはずである。贖われた人々の永遠の歌は、わたしたちを愛し、ご自身の血によってわたしたちの罪をわたしたちから洗い清めて下さったお方への讃美となる。そしてもしその歌を神のみ座の前で歌いたければ、ここでそれを学ばなければならない。」（彼を知るために 168）

個人的な復習問題

1. わたしたちの個人的な祈りは、なぜ密室で捧げられることが、非常に重要なのですか。
2. 祈りに対する答えのうちに、どの力がわたしたちに与えられますか。そしてどのようにして、この力は他の人々のために用いられますか。
3. 神はいつもどの祈りに一ただちに一答えてくださいますか。
4. わたしたちの周りにいる人々は、いつ神に仕え、礼拝することに、大きな恩恵を認めるようになりますか。
5. わたしたちは贖われた人々が天で歌うときに自分たちも参加するために、どの歌をこの地上で学ぶ必要がありますか。

祈祷会

「また、よく言うておく。もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。」(マタイ 18:19)

「密室の祈りが大いに必要とされている。しかし、クリスチャンが数人共に集まり、熱心さをもって自分たちの神への嘆願を一つにすることも必要である。」(天国で 91)

推奨文献： 教会への証 2 巻 577-582;
天国で 91-93

日曜日

8月5日

1. なぜ祈祷会へ行くのか？

- a. 祈祷会の目的は何ですか。なぜ出席することがそれほど重要なのですか(テサロニケ第一 5:11; ヘブル 10:25)。

「祈りが習慣的に捧げられるところへ行く機会をすべて求めなさい。本当に神との交わりを求めている人々は祈祷会にいることを見いだされるであろう。忠実に自分の分を果たし、自分たちが得られるすべての恩恵を刈り取ろうと熱心に切望しているであろう。彼らは自分が天からの光線を受けられる場所へ自らの身をおくすべての機会を活用するのである。

わたしたちは思想や感じたことを互いに交わすことによって啓発し、互いの希望や大志を知ることによって力と光と勇気を集めるために共に集まる。そして信仰によって捧げるわたしたちの熱心な心からの祈りによって、わたしたちは自分の力の源であられるお方から清新さと活力を受けるのである。これらの集会は最も尊い時となるべきである。」(天国で 91)

「わたしたち自身が共に集まる集会をやめることをしないように勧められる一方、これらの集会は単にわたしたち自身が活気づけられるためばかりであってはならない。わたしたちは自分たちの受けた慰めを与える、より大きな熱心さに鼓舞されるべきである。」(教会への証 6 巻 365)

2. 祈禱会をどのように運営するか

a. 祈禱会の時間に関して、わたしたちはどの原則を守るべきですか（コリント第一 14:40）。

「総会でも祈禱会でも、集会は長々としてはならない。もし可能であれば、全員が決められた時間を守るようにすべきである。そしてもし時間を守らない人があれば、それが 30 分あるいは 15 分でも、待つべきではない。もし二人が出席していれば、約束を主張することができる。可能であれば、集会は出席している人が多くても少なくとも決められた時間に開催されるべきである。形式主義や冷たいかた苦しさはわきへ置き、そして全員が義務に対して時間を守るべきである。」（教会への証 2 巻 577, 578）

「わたしが受けた光により、わたしたちの集会は霊的で社会的であるべきであり、長すぎではない。」（同上 579）

b. 神は長々とした消え入るような公の祈りをどのようにご覧になりますか（マタイ 6:5）。

「一般的な機会においては、十分以上かかる祈りはあるべきでない。姿勢を変えて、歌ったり勧めの言葉により同じことをしているという感覚を緩和した後、もし祈りの重荷を感じている人があれば、祈らせなさい。」（同上 578）

「わたしは、ある人々が自分の問題を個人的な祈りにおいて神に持ち出しておらず、それらを祈禱会にとっておき、何日分かの祈りをしているのではないかと案じる。そのような人々は集会や祈禱会の破壊者と名付けることができよう。彼らは何の光も放射せず、だれも啓発することがない。彼らの冷たい、凍り付いた祈りと、長く背教的な証は、影を投げかける。それらが終わるとみんな喜ぶ。そして彼らの祈りと勧めが集会にもたらした冷たさと暗さは、ほとんど捨てることが不可能なのである。」（同上 578, 579）

c. イエスはご自分が催された集会において、どのように祈ることを教えられましたか（マタイ 6:7）。

「キリストが民に教えておられるとき、このお方は祈りのために時間をお取りにならなかった。このお方はパリサイ人のように、長く退屈な儀式や祈りを彼らに強制なさらなかった。」（同上 580）

3. 分かち合うための時間

a. 祈祷会では、すべての人が何をやる用意ができていますか（マルコ 5:19（下句）；マラキ 3:16）。

「クリスチャンの道を前進しているすべての人は、生きた、何か新しく興味深い経験を持つべきであり、また持つのである。生きた経験は、日ごとの試練、闘い、誘惑、強力な努力と勝利、そしてイエスを通して得た大いなる平安と喜びによって作られる。そのような経験を単純に述べることは、他の人々が神聖な生活を前進する際に助けとなる光、力、知識を与える。」（教会への証 2 巻 579）

「わたしたちは日ごとにもっと天父のことを学び、このお方の恵みの新鮮な経験を得ることができる。そのとき、わたしたちはこのお方の愛を語りたいと願うようになる。そしてわたしたちがこうするとき、わたしたち自身の心が暖められ、励まされる。もしわたしたちがイエスのことをもっと多く、自分のことをもっと少なく考え、語るならば、このお方のご臨在をはるかにもっと得るのであるが…

一人の人がイエスのためにすべての証言をするのではない。そうではなく神を愛する一人ひとりがこのお方の恵みと真理の尊さを証すべきである。」（天国で 92）

b. わたしたちの経験を分かちほか、わたしたちは何を祈祷会に貢献できますか（詩篇 35:18; 107:31, 32）。

「あなたが恵みに成長しているならば、宗教的な集会に出ることを愛するようになり、喜んで会衆の前でキリストの愛を証するようになる。……希望、勇気、そして正しい道に歩もうとする決心の言葉が、道徳を低下させるような習慣にすべり落ちがちな人に、どれほどの力を与えることであろう！良い原則を実行するに際し、あなたが持つことのできる堅固な目的は、魂を正しい方向へむけさせる感化力を持つ。あなたがなしうる善には限りがない。」（彼を知るために 161）

「神はご自分の従順な子らがご自分の祝福をわがものと主張し、ご自分のみ前に賛美と感謝をもって来ることを望んでおられる。神は命と力の泉であられる。……このお方はすべての人の心に感謝を吹き込むべきことをご自分の選民のためになしてこられた。そしてあまりにもわずかな讚美しか捧げられないことはこのお方を悲しませる。このお方はご自分の民が歓喜し、喜ぶ理由があることを知っていることを示し、もっと強く表現することを望んでおられる。」（教会への証 6 巻 364）

4. 小さいグループで祈るために集まる

- a. わたしたちには学校で四人の青年が祈ったどの模範がありますか（ダニエル 2:13-18）。

「ダニエルとその友達は偽預言者たちと共に滅びることになっていた。しかし、命をかけて、ダニエルはあえて王の前に出て、夢と解き明かしを示すために時間を与えてくれるように請うた。

この要求に君主は同意した。そして今、ダニエルは自分の三人の友達と集まり、共にこの問題を神のみ前に持ち出し、光と知識の源であられるお方より、知恵を求めた。彼らは王の宮廷にいて、誘惑に囲まれていたが、神に対する責任を忘れなかった。彼らはこのお方の摂理が自分たちをそこに置いたのであること、自分たちがこのお方の働きをしており、真理と義務の要求に応じていることを強く意識していた。彼らは神に対して確信していた。彼らは困惑と危険の時に力を求めてこのお方へ向き、そしてこのお方は彼らにとっていつもいてくださる助けであられた。」（聖化された生涯 35）

「ひざまずいて、彼らは自分たちの大きな必要において自分たちに唯一役に立つ力と知恵を自分たちに与えてくださるよう、神に嘆願した。」（神の息子むすめたち 216）

- b. 彼らの祈りはどのように答えられましたか（ダニエル 2:19, 46-49）。

「神のしもべたちがこのお方に嘆願したのは無駄ではなかった。彼らはこのお方を尊んだ。そして試練の時にこのお方は彼らを尊ばれた。奥義がダニエルに明らかにされた。そして彼は王との面会を要請するために急いだ。」（聖化された生涯 35）

- c. ダニエルとその友達の祈りから、わたしたちは何を学ぶことができますか（マタイ 18:20）。

「密室の祈りが大いに必要とされている。しかし、クリスチャンが数人共に集まり、熱心さをもって自分たちの神への嘆願を一つにすることも必要である。イエスがご臨在するこれらの小さなグループにおいて、魂の愛は心のうちに深められる。そして、御霊がその力強い精力を発揮し、失われている人々の救いに関連して人間の代理人が用いられる。」（彼を掲げよ 358）

5. キャンプミーティングの中で

- a. キリストが祈られたどの条件が、またわたしたちの祈りの主題となるべきですか（詩篇 133:1; エペソ 4:3）。
- b. この状態は、とくにキャンプミーティングの時に、どのように達成することができますか（マタイ 18:19; 箴言 24:6（下句））。これは出席している人々にどのように影響しますか。

「キャンプミーティングで労している人々はしばしば共に祈りと相談に携わるべきである。こうして知的に労することができるためである。これらの集会では注意をはらうべきことが多くある。しかし、牧師たちは共に祈りと相談のために毎日集まる時間を取るべきである。あなたは万事に均衡がとれていることを確認し、わたしに語られた言葉の通り、『あなたがたは肩と肩を合わせて立ち、まっすぐ前に進み、後退してはならない』。働きがこの方法で進められるとき、心の一致があり、行動の調和がある。これは神の祝福を民にもたらす素晴らしい手段となる。

説教をする前に、牧師たちは知恵と力を神に求めるために時間を取るべきである。以前には、牧師たちはしばしば離れたところへ行き、共に祈り、そして神の御霊が彼らの祈りに答えて下さるまでやめなかった。そのとき、彼らは祈りの場所から明るくされた顔で帰ってきたものであった。そして彼らが会衆に語るとき、彼らの言葉には力があつた。御霊が彼らのメッセージを受けるために祝福を与え、心を整えたために、彼らは民の心に触れた。魂が改心するために道を準備することにおいて、わたしたちが自覚するよりもはるかに多くのことが全天によってなされているのである。」（教会への証 6 巻 50）

個人的な復習問題

1. 祈禱会に出席することから得られる祝福のいくつかは何ですか。
2. どれくらいの時間を祈りに捧げるべきですか。なぜですか。
3. わたしたちはなぜ祈禱会において自分たちの経験を分かちべきなのですか。
4. わたしたちはダニエルと三人の友達によって持たれた祈禱会から何を学ぶことができますか。
5. なぜわたしたちのキャンプミーティングの指導者たちはしばしば祈りと相談のために共に時間を取るべきなのですか。

公の祈り

「また、祈る場合、異邦人のように、くどくどと祈るな。彼らは言葉かずが多ければ、聞きいれられるものと思っている。」(マタイ 6:7)

「長くて退屈な嘆願は、もしそのようなものを捧げなければならないとすれば、それは密室のためにとっておきなさい。神の御霊があなたがたの心の中に入るようにしなさい。そうすれば、すべての乾いた形式主義は一掃される。」(教会への証 4 巻 71)

推奨文献： 福音宣伝者 175-179

日曜日

8月12日

1. 礼拝と働きにおいて祈る

a. 神への公の礼拝、またこのお方に語る方法は、どのような態度で特徴づけられるべきですか (詩篇 96:9)。

「神のみ前にくるすべての者の態度は、けんそんで敬神深いものでなければならぬ。われわれは、イエスのみ名によって、確信を持ってみ前に出ることができるが、あたかも神がわれわれと同等であられるかのように、無遠慮な態度で近づくべきではない。近づくことのできない光の中に住み、偉大で、全能であられる聖なる神にむかって、あたかも同等か、あるいは目下のものに話しかけるような言葉を用いる人がある。」(人類のあけぼの上巻 286)

b. 公の祈りにおいてこの態度を反映するのに、ふさわしい姿勢は何ですか (詩篇 95:6; 使徒行伝 20:36; 21:5)。

「わたしは宇宙の君主に祈りを捧げるとき人がとるのにふさわしい態度について尋ねる手紙を受けた。わたしたちの兄弟はいったいどこで、神に祈るときに立っているべきだという考えを得たのであろうか。バトル・クリークでおよそ 5 年間教育を受けてきた人が、ホワイト姉妹が民に語る前に祈るように言われた。しかし、わたしは神に祈るために彼の唇が開こうとしているときに、彼がまっすぐに立っているのを見て、魂が内側でかき立てられ、彼に公の譴責を与えた。彼の名を挙げて呼び、言った、『ひざまずきなさい』。これがいつもあるべき姿勢である。」(レクテッド・メッセージ 2 巻 311)

2. 短く要点を

a. イエスは公に祈る方法について、どの模範を残されましたか（マタイ 6:9-13）。

「主の祈りは、単に形式として繰り返すことを意図されたのではなく、わたしたちの祈りがどうあるべきか—単純で、熱心で、包括的なもの—の例証である。単純な嘆願において、主にあなたの必要を述べ、このお方の憐れみのために感謝を表現しなさい。」（教会への証 6 巻 357）

「キリストはご自分の弟子たちに、祈りは短く、彼らがまさに欲していることだけを表現すべきことを印象づけられた。このお方は彼らの祈りの長さや内容を与え、一時的な祝福と霊的な祝福を求める願い、またそれらのための感謝を表現される。この模範の祈りはなんと包括的なことであろう。それはすべての人の実際の必要を網羅している。通常の祈りは、1、2 分で充分である。」（同上 2 巻 581）

b. わたしたちがどのように語るべきかというどの原則が、公の祈りにも当てはまりますか（箴言 10:19）。なぜある公の祈りは非常に長いのですか。

「長くて単調な話や祈りはどこも場違いであるが、特に集会においてはそうである。いつも前に出て話す用意のできている人は、臆病で引込み事案の人の証を締め出すのを許されている。全般的に最も表面的な人が、最も言うことが多い。彼らの祈りは長くて人間らしさに欠ける。彼らは天使たちや聞いている人々を疲れさせる。わたしたちの祈りは短く、要点を得ているべきである。長くて退屈な嘆願は、もしそのようなものを捧げなければならないとすれば、それは密室のためにとっておきなさい。神の御霊があなたがたの心の中に入るようにしなさい。そうすれば、すべての乾いた形式主義は一掃される。」（教会への証 4 巻 70, 71）

「長くて退屈な祈りが公に捧げられる理由は往々にして密室の祈りがなおざりにされているからである。牧師は自分の怠慢を贖い、良心をなだめることを期待して、なおざりにされた一週間の義務を自分の嘆願の中で繰り返すことがないようにしなさい。そのような祈りはしばしば他の人々を霊性の低い水準に引き下ろす結果になる。」（福音宣伝者 176）

「長くて説教じみた祈りは、公に場違いであり、ふさわしくない。熱心さと信仰をもって捧げられる短い祈りは、聞いている人々の心を和らげる。しかし、長い祈りの間、彼らは一言ごとに終わるのを待っているかのように、じりじりして待つのである。」（同上 179）

3. へりくだりをもって祈る

a. わたしたちは祈りのうちにどの態度を避けるべきですか (マタイ 6:5, 7, 8)。

「多くの人々は、乾いた説教のような形式で祈りを捧げる。これらの人々は神ではなく、人に祈っているのである。もし彼らが神に祈っており、自分たちが何をしているかを本当に理解したならば、自分たちの厚かましさに驚くであろう。なぜなら、彼らはあたかも宇宙の創造主が世の中で生じている物事に関して全般的な問題について特別な情報を必要としておられるかのように、祈りという様式で主に説教をしているからである。そのような祈りはみな、やかましい鐘や騒がしい鐃鉢と同じである。それらは天ではまったく勘定されない。神の御使たちも、またそれを聞かされる人間も疲れさせられるのである。」(教会への証 2 巻 581, 582)

「あなたが祈るとき、簡潔に下さい。真つすぐ要点に触れなさい。あなたの長い祈りの中で主に説教をしてはならない。お腹のすいた子供が自分の地上の父親にパンを求めるように、命のパンを求めなさい。神はもしわたしたちが単純さと信仰のうちにこのお方に求めるならば、わたしたちにすべての必要な祝福を授けて下さる。」(同上 5 巻 201)

b. 神の御目に価値のあるものは何ですか (ペテロ第一 3:4; ヤコブ 4:6)。そうであれば、わたしたちはどのように祈るべきですか。

「祈りは魂の最も聖なる働きである。それはまじめで、謙遜で、熱心な、新しくされた心が聖なる神のみ前で呼吸する願いであるべきである。嘆願者が神聖な方のみ前にいることを感じるとき、自己は忘れられる。彼は人間のタラントをひけらかさうという願いを持たない。彼は人の耳を喜ばせることを求めず、魂がほしがる祝福を得ようとするのである。」(同上)

c. いつ神は、公に捧げられている祈りをお聞きになりませんか (詩篇 66:18)。

「もし、心に不義のあることを知り、罪と知りながらそれに執着しているならば、主は、わたしたちの祈りに耳を傾けられない。しかし、心の砕けた悔い改めた者の祈りは、必ず聞かれるのである。心におぼえのある悪をすべて正したときに、神はわたしたちの祈りを聞いてくださると信じることができる。わたしたち自身のどんな行為も、神の恵みを受けるにはなんの価値もない。わたしたちを救うのはイエスの功績であって、わたしたちをきよめるのもイエスの血である。しかし受け入れられる条件に応じることに於いて、わたしたちもしなければならぬ働きがある。」(キリストへの道 130, 131)

4. 神の指導者たちの祈り

- a. 宮の献堂式において、ソロモン王はどの公の祈りの模範を残しましたか（歴代志下 6:12, 13）。

「宮の献堂式の時に、ソロモンは祭壇に向かって立った。宮の庭の中に、青銅の足台つまり土台があり、ここにのぼった後、彼は立って自分の両手を天に向かって差し伸べ、そしてイスラエルの数えきれない会衆を祝福した。そしてイスラエルの全会衆は立っていた。……

『ソロモンはさきに長さ五キュビト、幅五キュビト、高さ三キュビトの青銅の台を造って、庭のまん中にすえて置いたので、彼はその上に立ち、イスラエルの全会衆の前でひざをかがめ、その手を天に伸べて』（歴代志下 6:13）。」（*レクテッド・メッセージ* 2 巻 312, 313）

- b. この祈りから、わたしたちは何を学ぶことができますか（歴代志下 6:14-42）。

「〔ソロモンが〕捧げた長い祈りは、この場合にはふさわしかった。それは神に靈感を受けたものであり、最も高尚な敬神に最も深いへりくだりが混じりあった言葉が口から出たものであった。」（同上 313）

- c. 救出を求めたヨシャパテの謙遜な公の祈りに、神はどのように答えてくださいましたか（歴代志下 20:5-12）。また、ヨシャパテの応答はどのようなものでしたか（歴代志下 20:14-19）。

「ヨシャパテは人々の前で、神殿の庭に立って心を注ぎ出して祈り、イスラエルの無力さを告白して神の約束を願い求めた。……

ヨシャパテは確信をもって『ただあなたを仰ぎ望むのみです』と言うことができた。彼はむかし神の選民を全滅から救うために度々介入された神に信頼するように、永年にわたって人々を教えてきた。そして今、王国が危機にひんしたときに、ヨシャパテはただひとりですったのではなかった。『ユダの人々はその幼な子、その妻、および子供たちと共に皆主の前に立っていた』（歴代志下 20:13）。彼らは一つになって断食して祈った。彼らは一つになって、主が彼らの敵を混乱させ、主のみ名があがめられるように願い求めたのである。』（国と指導者上巻 165, 166）

5. 公の祈りのイエスの模範

- a. 記録にあるイエスのいくつかの公の祈りの中で一つの祈りの目的は何でしたか (ヨハネ 11:41-43)。

「救い主は、ご自分の目を天にあげて祈られた。

『父よ、わたしの願いをお聞き下さったことを感謝します。あなたがいつでもわたしの願いを聞きいれて下さることを、よく知っています。しかし、こう申しますのは、そばに立っている人々に、あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるためです。』この祈りの後に続いた沈黙は、イエスが大声で叫ばれたことによって破られた、『ラザロよ、出てきなさい。』(預言の霊 2 巻 365)

- b. この信仰の祈りの結果は何でしたか (ヨハネ 11:44)。

「このキリストの最高の奇跡は多くの人にキリストを信じさせた。しかし、墓の周りに群がり、イエスによってなされた素晴らしい働きを見聞きした中のある人々は、改心せず、自分自身の耳目の証拠に対して自分の心を鋼のようにした。このキリストの力の現れは、神がそのひとり子を人類の救いのためにこの世に送られたという証拠として、神が提供された最高の現れであつた。もしパリサイ人たちがこの力ある証拠を拒むのであれば、天や地にあるどんな力も、彼らからその悪魔的な不信を取り去ることはできなかった。」(同上 366)

個人的な復習問題

1. 公に祈るとき、何がわたしたちの姿勢となるべきですか。これは祈りにおけるわたしたちの声にどのように影響しますか。
2. イエスがご自分の弟子たちにお教えになった祈りから、わたしたちは何を学ぶことができますか。
3. どのようにわたしたちの祈りはやかましい鐘や騒がしい饒鉢で終わるかもしれませんか。
4. ヨシャパテの祈りは、どうしてあのように素晴らしい方法で答えられたのですか。
5. イエスがラザロの墓の前で捧げられた短い公の祈りの目的は何でしたか。

他の人々のために祈る

「だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互のために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。」(ヤコブ 5:16)

「魂のために祈ることを始め、キリストの血の流れる脇腹に近づきなさい。柔和な精神を生活の飾りとし、自分自身の魂ばかりでなく人の魂も救うことに成功できるように知恵を求めて、あなたの熱心で、心砕けた、謙遜な嘆願がこのお方のみ許へのぼるようにしなさい。」(青年への使命 203)

推奨文献： 国と指導者上巻 87-106, 123-126

日曜日

8月19日

1. あなたを傷つける人々のために祈る

- a. ヨブはどれくらい苦しみましたか (ヨブ 1:13-22; 2:7-10)。
- b. ヨブの苦しみはいつ止まりましたか (ヨブ 42:7-10)。

「主はヨブの捕囚を覆されたのは、彼が自分自身のためばかりでなく、彼に反対する者たちのために祈った時であった。彼が自分に対して罪を犯す魂が助けられるようにとの願いを真剣に感じたときに、彼自身が助けを受けたのであった。祈ろう。わたしたち自身のためばかりでなく、わたしたちを傷つける人々のために、そしてわたしたちを傷つけ続ける人々のために祈ろう。祈りなさい、祈りなさい、特にあなたの心の中で祈りなさい。主に休みを与えてはならない。なぜなら、このお方の耳は、魂がこのお方のみ前にへりくだるとき、真心からのやめようとしないう祈りを聞くために開かれているからである。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 3 巻 1141)

- c. 自分自身の激しい苦しみにもかかわらず、ヨブは他の人々のことを考えることに、どのように報われましたか (ヨブ 42:11-13)。

2. 町全体のために祈る

- a. 自分の甥であるロトと共に、ソドムの町を救出した後、アブラハムはソドムを滅ぼそうとなさる主のご計画に対してどのように反応しましたか（創世記 18:20-25）。

「神は、アブラハムに大きな名誉をお与えになった。天使が友だち同志のように彼と歩き、語った。ソドムに神の刑罰が下されようとしたときも、その事実が彼にはかくされなかった。そして、彼は、罪人のために、神にとりなすものとなった。

……

『主の親しみは主をおそれる者のためにあり』（詩篇 25:14）。アブラハムは、神を尊んだ。それで、主も彼を尊び、神の会議に彼を加えて、みこころを彼にあらわされた。」（人類のあけぼの上巻 140, 141）

- b. アブラハムは、町の真の状態がどのようなものかを知らないことを認めつつ、ソドムのためにどのように嘆願しましたか（創世記 18:26-33）。

「ロトは、ソドムの住民にはなったけれども、彼は、住民の罪に参加していなかった。アブラハムは、人口の多いこの町に、真の神の礼拝者がほかにもあるにちがいないと思った。……アブラハムは一度だけでなく何度も願った。願いが聞かれるにつれて大胆になり、もし、十人の義人がソドムにいたならば、町は救われるという確証をついに得た。

アブラハムは、滅亡にひんした魂への愛に動かされて祈った。彼は、腐敗したソドムの町の罪はきらったが、罪人が救われることを願った。アブラハムがソドムのために抱いた深い関心は、われわれが悔い改めていない人々に対して感じなければならない切実な思いを示している。われわれは、罪を憎まなければならないが、罪人には、あわれみと愛を持たなければならない。われわれの回りには、ソドムののぞんだのと同じように、希望なく恐ろしい破滅に陥っている魂がある。……けんそんに、しかも忍耐強い信仰をもって、罪人のためにとりなす人はどこにあるだろうか。」（人類のあけぼの上巻 142, 143）

- c. 最終的に、神はソドムから何人を救うことがおできになりましたか（創世記 19:30）。

3. 悔い改めない人のために祈る

- a. イスラエルに訓練として、もし彼らが神に不従順であり続けるなら、何が約束されていましたか (申命記 28:15, 16, 23, 24)。
- b. この約束に基づいて、エリヤはイスラエルのために、神に対する歴然とした不従順の期間中、何を祈りましたか (ヤコブ 5:17)。

「彼は心を悩まして、かつては神に恵まれた民の悪行を神が阻止されるように祈り求めた。そしてもし必要ならば、彼らに罰を下してでも、彼らに天の神からの離反が何であるかを悟らせようとした。彼は、彼らが悪行の果て、ついに神の不興を招いて、全く滅ぼされるに至る前に、彼らが悔い改めることを願ったのである。

エリヤの祈りは聞かれた。訴えや忠告や警告が何度もなく繰り返されたにもかかわらず、イスラエルを悔い改めさせることができなかった。刑罰によって、神が彼らに語るべき時が来たのである。バアルの礼拝者たちは、露や雨などの天の宝は主がお与えになるものではなくて、自然の法則によるものであり、また、地が肥沃になって、豊かな実りをもたらすのは、太陽の創造的エネルギーによるものであると主張していたので、汚染された地上に、神ののろいがきびしく下ることになったのである。……彼らが悔い改めて神に立ち返り、神がすべての祝福の源であることを認めない限り、地には、雨も降らなければ露もおりなくなるのであった。」(国と指導者上巻 88)

- c. イスラエルが神が最上であることを認めたとき、エリヤの祈りは何でしたか。またその結果は何でしたか (ヤコブ 5:18; 列王紀上 18:42-45)。

「カルメル山で〔エリヤが〕雨を求めて祈ったときに (列王紀上 18:41-45)、彼の信仰は試みられたが、彼は辛抱強く、神に自分の要求を訴え続けた。……神はいつもわたしたちの祈りをこのお方に呼び求めた最初から聞いてくださるとは限らない。なぜなら、そうすると、わたしたちはそれを自分たちがこのお方の授けて下さる祝福や恩寵をみな受ける権利があると受け取るかもしれないからである。自分たちの心に抱いている悪、何か大事にしている罪があるかもしれないと探るかわりに、わたしたちは不注意になり、自分たちが神に依存していることやこのお方の助けが必要なことを認めなくなるであろう。」(神の驚くべき恵み 88)

4. 悲惨な状況にある人々のために祈る

- a. ペテロに何が起こりましたか。そして教会はどのように応じましたか（使徒行伝 12:1-5）。

「ヤコブの死のために大変な悲しみと驚愕があった。ペテロがまた投獄されたとき、教会全体は祈りと断食をした。……

ペテロの死刑執行が、いろいろな名目で過越節の後まで延ばされていた間、キリストの教会には心を深く探り、熱心な祈りをするための時間があつた。強い嘆願、涙、断食が共に混じりあつた。彼らはペテロのために途切れることなく祈つた。彼らはクリスチャンの働きは彼がいなくてはできないと感じた。そして彼らは自分たちが神の特別な助けがなくてはキリストの教会が消滅する地点にまで達したと感じた。」（預言の霊 3 巻 335, 336）

- b. 神はご自分の忠実な民の祈りに、どのように答えてくださいましたか（使徒行伝 12:6-12）。
- c. 神がわたしたちの困難な時に共にいて下さることを保証するどのような約束がありますか（詩篇 28:7; 91:14, 15）。

「病人、悲しんでいる者、落胆した者のために祈りを求められることが多くあるがこれは正当なことである。神が暗い心に光を照し、悲しむ者を慰めてくださるよう祈ってほしいとたのまれることがよくある。神の祝福の通路に自ら立つ者の祈りに神はこたえられるのである。わたしたちは、こうした悲しんでいる人のために祈るとともに、もっと困っている人を助けるように彼らを励まさなければならない。他人を助けようと努力するとき、その人自身の心から暗黒は追い払われるであろう。わたしたちが慰められたその慰めをもって他人を慰めようとするとき、祝福が自分に返ってくるのである。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 235）

「主がわたしたちを慰め、滅ぼす者の手よりわたしたちを救いたもうた際の記念の塔をながめよう。神は、涙をぬぐい痛みを和らげ、心労を除き恐怖を取り去り、必要を満たし祝福をさずけて下さるのであるが、こうした神のあわれみの数々をつねに心にとめて自らを励まし、わたしたちの前途に横たわる残りの旅路を進まねばならない。」（キリストへの道 175, 176）

5. 他の人たちが祈らないときに、神は覚えて下さる

- a. ローマ人がパウロのことを調べた際に彼らによって保護されたとき、パウロに何が起きましたか（使徒行伝 23:12-15）。
- b. パウロを救うために神はどのように介入されましたか（使徒行伝 23:16-22）。

「ペテロが囚人となり、死刑の宣告を受けたとき、兄弟たちは彼の救出を求めて神に昼夜熱心に祈りを捧げた。しかし、そのような関心はモーセからの背信した危険な教理の教師だとみなされていた〔パウロ〕のためには表されなかった。パウロがこの暴虐な死から免れることができたのは、彼をこの危険な状態に陥れた勧告をした長老たちのおかげではなく、一人の親戚の用心深い同情のおかげであった。」（パウロの生涯からのスケッチ 226）

- c. わたしたちは神が今日ご自分の忠実な子らを覚えて下さることが、どのようにわかりますか（ヘブル 13:5（下句）；詩篇 37:28）。

個人的な復習問題

1. 自分に反対している人々のために祈ったとき、ヨブに何が起きましたか。わたしたちはこのことから何を学ぶことができますか。
2. アブラハムがソドムのために祈るように鼓舞したものは何でしたか。わたしたちは同じ精神を今日どのようにして抱くことができますか。
3. エリヤはなぜ、神にご自分の民に裁きをもって臨んでくださるように祈ったのですか。
4. ペテロのためにどのような種類の祈りが捧げられましたか。その結果は何でしたか。
5. パウロが自分の兄弟たちから捨てられたとき、神はどのように彼を覚えてくださいましたか。

祈りの制限

「わたしたちが神に対していただいている確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞き入れて下さるということである。」(ヨハネ第一 5:14)

「イエスのうちに宿っている人々には神が自分たちに耳を傾けてくださるという保証がある。なぜなら、彼らはこのお方のみ旨を行うことを愛するからである。彼らは形式的な言葉の多い祈りを捧げることをせず、子供が優しい父親の許へ来るように、真剣で謙遜な確信をもって神のみ許へ来て、自分たちの悲しみや恐れや罪の話を注ぎだし、イエスのみ名のうちに自分たちの必要を提示するのである。彼らは許しの愛と支えの恵みの保証のうちに喜んで、み前を離れる。」(わたしたちの高い召し 147)

推奨文献： 各時代の希望中巻 334～354

日曜日

8月26日

1. 神は遅延を通して働かれる

- a. マリヤとマルタはイエスにどの要望を持ってきましたか(ヨハネ 11:1, 3)。この表現はどのような信仰を伝えるものでしたか。

「ラザロが病気になったとき、〔マリヤとマルタ〕はイエスに次の言葉を送った、『主よ、ただ今、あなたが愛しておられる者が病気をしています』。それ以上の言葉、来てくれるようにと急ぎ立てるメッセージはなかった。彼らは自分の愛する友が直ちにきて、自分たちの兄弟を癒してくださることを完全に期待していた。」(原稿リリース 21 巻 109)

- b. イエスは姉妹たちの祈りにお答えになりましたか(ヨハネ 11:6)。イエスの遅延の結果は何でしたか(11-14 節)。

「使者が行くとすぐに〔マリヤとマルタ〕は病人に悪い方へ向かう決定的な変化を認めた。彼の熱は急速に上がり、まもなく命と死の闘いにおいて、彼女たちは死が勝ったことを見た。苦悩に満たされた心で、彼女たちは自分の弟が死んだことを見た。」(同上)

2. わたしたちを待たせることにおける神のご目的

- a. イエスはなぜラザロが死ぬのを許されたのですか(ヨハネ 11:4, 15)。イエスがラザロに会いに来るのが遅れた結果、彼にどのような誉がもたらされましたか(ヨハネ 11:38-44)。

「主は、ラザロが死ぬことをおゆるしになった。もし主がラザロを病気から健康へ回復されたら、イエスの神としての性質についての最も絶対的な証拠であるこの奇跡は行われなかったのである。」(各時代の希望中巻 342)

- b. ラザロとのイエスの経験から、わたしたちは何を学ぶことができますか(詩篇 37:5, 7 (上句))。

「不信という鋭い矢ほど、魂を傷つけるものはない。試練は必ず訪れるのであるが、それが訪れるとき、心配したり、つぶやいたりしてはならない。魂のうちの沈黙はよりさやかに神のみ声を聞き分ける。『こうして彼らは波の静まったのを喜び、主は彼らをその望む港へ導かれた』(詩篇 107:30)。あなたの下にはとこしえのみ腕があることを覚えていなさい。『主の前にもだし、耐え忍びて主を待ち望め』(詩篇 37:7)。このお方は恵み深い経験という港へあなたを導いておられるのである。」(天国で 269)

- c. なぜ、ときに神はわたしたちの祈りに応えるのを遅らせるのですか(ヘブル 10:35, 36; ヨブ 23:10)。

「わたしたちはときどき要望したことが直ちに聞かれなないと、『求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう』という約束が果たされないと考えるように誘惑される。特別な祝福を求め、それらが与えられると信じるのはわたしたちの特権である。しかし、求めた祝福が直ちに与えられなくても、自分の祈りが聞かれなかったと考えるべきではない。わたしたちはもし答えがしばらく遅れたとしても、受けるのである。贖いの計画を実行されるにあたり、キリストは人類の中にご自分を失望させるものを十分ご覧になる。しかし、このお方は失望されない。憐れみと愛のうちにわたしたちに機会と特権を提供し続けて下さる。であるから、わたしたちは主に安んじ、忍耐強くこのお方を待ち望むべきである。わたしたちの祈りに対する答えは、願ひ通りに速やかにもたらされず、またわたしたちが求めた通りのものではないかもしれない。しかし、もしわたしたちが信仰をなくさず、失望しないならば、ご自分の子らにとって何が最高の善であるかをご存じのお方がわたしたちの求めたものよりはるかに良いものを授けてくださるのである。」(ユース・インストラクター 1899 年 4 月 6 日)

3. 免れるために祈ることを拒む

- a. イエスがわたしたちの罪のために犠牲とならなければならなかったとき、このお方の人性はご自分の前にある戦いに対して、どのように反応しましたか（マタイ 26:39; ルカ 22:42）。

「神秘の雲が神のみ子をおおっているようであつた。その暗さがイエスの近くにいる人々に感じられた。イエスは物思いにふけておられた。ついにその沈黙はイエスの悲しみに沈んだ声によって破られた。『今わたしは心が騒いでいる。わたしはなんと言おうか。父よ、この時からわたしをお救い下さい』（ヨハネ 12:27）。事前にキリストはすでににがいさかずきから飲んでおられた。キリストの人性は、ご自分が捨てられる時を思つて、たじろいでいた。その時には、どう見ても、キリストは神からさえ捨てられ、キリストが神から打たれ、たたかれ、苦しめられるのをすべての者が見るのであつた。キリストは、人目にさらされ、極悪の罪人のように取り扱われ、恥ずかしい不名誉な死に会うことをちゅうちょされた。暗黒の勢力との戦いについての予感、人類の罪とがについての恐るべき重荷の思い、罪のゆえの天父の怒りが、イエスの精神をめいらせ、死の青白さをイエスの顔にひろがせた。」（各時代の希望下巻 86）

- b. このお方の人性はみ前にある戦いにひるまれたにもかかわらず、イエスはどのように御父への屈服を表明なさいましたか（マタイ 26:42; ヨハネ 12:27）。

「最高の危機において、心と魂が罪の重荷の下に破れそうになっているとき、ガブリエルが神聖な受難者を強め、その血染めの道を歩むよう準備するために送られた。そしてこの天使がこのお方の気を失いかけたお体を支えている間、キリストは苦い杯を取り、その中身を飲むことに同意される。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1123）

- c. イエスは何を祈ることを拒まれ、それによって御父のみ旨への完全な屈服を表されましたか（マタイ 26:52-54）。

「イエスは〔ペテロに〕剣を収めるように命じて、彼に言われた、わたしが父に願つて、天の使たちを十二軍団以上も、今つかわしていただくことができないと、あなたは思うのか。しかし、それでは、こうならねばならないと書いてある聖書の言葉は、どうして成就されようか。弟子たちは、イエスが彼らにご自分を連れていくがままにさせたことから再び、絶望と苦い失望に陥った。」（霊的な賜物 1 巻 48）

4. 自己義の人々を助けることの難しさ

- a. エレミヤは当時の人々をどのように譴責しましたか。またイエスはこれらの言葉をご自分の周りにいる人々に、どのように当てはめましたか(エレミヤ 7:3, 4; マタイ 21:13)。

「祭司たちと役人たちは、利己心と貪欲心のために心がかたくなになっていた。彼らは、神の子羊イエスをさし示している象徴さえ、金もうけの手段としていた。こうして、人々の目の前で、犠牲制度の神聖さは大部分失われていた。イエスの憤激がわき起こった。イエスは、もうすぐ世の罪のために流されるご自分の血が、たえず流されている動物の血と同じように、祭司たちと長老たちからすこしも理解されないことをご存じであった。」(各時代の希望下巻 29)

- b. この同じ状態は今日どのように存在しますか(黙示録 3:14-20)。

「神はご自分の民とのご自分の契約に対して真実であられる。このお方のみ言葉は無謬である。このお方の民は、自分自身の人間の知恵のために、このお方の勧告を捨てることによって自らの身に苦難をもたらしている。彼らの祈りがこのお方の御座に届くことは不可能である。なぜなら、不従順の反逆が彼らの嘆願の内容だからである。キリストが天から来られたのは、御父がその家族の墮落した者たちのためにご自分に託してくださったみ言葉を教えるためであった。聞いて従う人々は安全な道を歩むのである。……キリストの力を通して、彼らはすべての敵に対して勝利する。」(レビュー・アンド・ヘルド 1902 年 4 月 8 日)

- c. 見せかけの聖潔で罪を覆う民のために祈ることについて、エレミヤにどのような厳しい指示が与えられましたか(エレミヤ 7:16)。わたしたちはこの状態にいる人々のために、何だけを祈ることができますか(使徒行伝 26:18)。

「神は、もしこのお方の教会員が用いていただくことのできる場所に自らの身を置くなら、彼らをご自分の助けの手としてお用いになる。しかし、このお方は不純な水路を通して伝達なさることはない。なぜなら、そうすると、このお方の聖なるみに恥辱をもたらすからである。」(同上)

「教会と世の間の境界線はほとんど消し去られてきた。そして改革がない限り、敵によって盲目にされてきた人々の目が開かれない限り、彼らは失われることになる。」(サインズ・オブ・タイムズ 1892 年 7 月 25 日)

5. 神のみ旨に従って祈る

a. すべての祈りにどの制限がおかれていますか(ヨハネ第一 5:14)。

「キリストのみ名によって祈ることには多くの意味がある。それはわれわれがキリストの品性を受け入れ、キリストの精神をあらわし、キリストのみわざをなすことを意味する。救い主の約束は条件つきで与えられている。主は、『もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである』と言われる(ヨハネ 14:15)。主は人を罪のうちにあって救われるのではなく、罪から救われるのである。そして、主を愛する者たちは従うことによって彼らの愛を示すのである。

すべての真の服従は心から生れる。キリストにとってはそれは心の働きであった。もしわれわれが承知するなら、キリストはわれわれの思いやこころざしと一体となり、われわれの心と意思とを一つにしてご自分のみこころに一致させてくださるので、キリストに従うときに、われわれは自分自身の衝動を実行しているにすぎない。意志は洗練され、きよめられて、主のご用をなすことに最高のよろこびをみいだす。神を知ることはわれわれの特権であるが、このように神を知るときに、われわれの生活は変わることのない服従の生活となる。』(各時代の希望下巻 150)

「信仰の祈りには天来の学問がある。人生の活動に成功したいと思えば、だれでもこの学問を理解しなければならない。キリストは『なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう』と仰せになっている(マルコ 11:24)。キリストはわれわれの祈りが神のみ心になつたものでなければならないことを明らかにしておられる。われわれの神の約束なされたものを求め、そして与えられるものはすべて神のみこころをなすために用いなければならない。この条件が果たされるときに、約束ははつきりしている。」(教育 304)

個人的な復習問題

1. ラザロが病気の時にイエスが会いに来るのが遅れた時、何が起こりましたか。彼の姉妹たちはどのように反応しましたか。
2. もしわたしたちの祈りが自分たちの期待した通りの方法や時に応えられないとしたら、何をなすべきですか。なぜそれが起こるのですか。
3. 十字架上で死なれる前のイエスの苦悩を述べなさい。このお方はどのような態度をとっておられましたか。
4. なぜ神は自己義の人を助けることがおできにならないのですか。
5. 神はいつ、わたしたちが祈り求めたものをくださいますか。

聖霊を求めて祈る

「あなたがたは春の雨の時に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い、野の青草をおのおのに賜わる。」(ゼカリヤ 10:1)

「わたしたちは、弟子たちがペンテコステの日に祈ったように、聖霊の降下を熱心に求めて祈るべきである。もし彼らがその時、それを必要としていたのであれば、わたしたちは今日、さらにそれを必要としている。道徳的な闇が、葬儀のとぼりのように地を覆っている。あらゆる種類の偽りの教理、異端、また悪魔的な欺瞞が、人々の思いを誤り導いている。神の御霊と力なしには、わたしたちが真理を提示しても無駄である。」(教会への証 5 巻 158)

推奨文献： 牧師への証 506-512

日曜日

9月2日

1. 約束された力

- a. もしわたしたちが自分自身を完全に神に捧げるならば、どの力が約束されていますか(使徒行伝 1:5, 8)。どの目的のために、この力は約束されているのですか(ルカ 6:38 (上句))。

「神の恵みの富が人々に流れないのは、神の側で何か制限があるためではない。このお方の賜物は神のようである。このお方は人が受けることを喜ばないがゆえに感謝しないものを惜しみなく与えて下さった。もしすべての人が受けることを望むならば、すべての人が御霊に満たされるのである。……わたしたちは神の御霊の深い動きを期待することが自分たちの特権であるときに、あまりにもたやすく表面的なさざ波で満足してしまう。

この賜物を受けることによって、他のすべての賜物がわたしたちのものとなる。なぜなら、わたしたちはキリストの恵みの富の豊かさに従ってこの賜物を得るからである。そしてこのお方はいつでもすべての魂にその受ける能力に従って満たす用意ができておられる。そうであれば、わたしたちはこの祝福をわずかばかり、ただ自分たちが死のまどろみから守るばかりの量で満足するのではなく、神の恵みの豊かさを勤勉に求めようではないか。」(今日のわたしの生涯 57)

「キリストから受けるものは、他の人々に与えなければならない。……キリストの恵みを受ける人はだれも、それを自分のうちに留めておくことはできない。」(医事伝道 334)

2. 力を受けるために準備する

- a. 弟子たちは、どのように約束された祝福を受けることになっていましたか（ルカ 24:49）。

「弟子たちはキリストのご命令に従って、エルサレムで天父のお約束の聖霊の降下を待った。彼らは何もせずぼんやりと待っていたのではない。記録によると、『絶えず宮にいて、神をほめたたえていた』とされている（ルカ 24:53）。彼らはまた、イエスの名によってみ父に願いを申し出ようと集まっていた。」（患難から栄光へ上巻 29）

「わたしたちが完全に、心を尽くしてキリストの奉仕に献身するとき、神は制限なくご自分の御霊を注がれることによってその事実をお認めになる。しかし、これは教会の大部分が神と共に働く共労者とならないかぎりなのである。神は利己心と自己放縦がこれほど表されているときにはご自分の御霊を注ぎだすことはおできにならない。言葉にすれば、カインの答え『わたしが弟の番人でしょうか』に表現されるような精神が蔓延しているときには注ぐことができないのである。」（今日のわたしの生涯 59）

- b. この力を受けたときの弟子たちの状態はどのようなものでしたか（使徒行伝 2:1）。

「弟子たちは人々と接するのにふさわしくなるように、また、日常の交わりの中で罪人をキリストに導くような言葉を語るのにふさわしくなるように、とりわけ熱心に祈った。意見の不一致や優位を望む心をすべて捨て、クリスチャンの交わりの中で互いに親密になった。……」

こうした準備の日々は、深く心をさぐる日々であった。弟子たちは霊的な不足を感じ、救霊の働きをするのにふさわしい者となることができるように、聖油が注がれることを祈り求めた。彼らは自分たちのために祝福を求めたのではない。彼らは魂の救いという重荷を負っていた。」（患難から栄光へ上巻 31）

- c. この力を受ける準備をするために、わたしたちは各自、何をする必要がありますか（使徒行伝 3:19）。

「改革と悔い改めの働きがあるようにしよう。すべての人は聖霊の注ぎを求めよう。キリストの昇天後弟子たちがそうであったように、そのためには熱心に神を求め、罪を除き去る数日間を要するかもしれない。」（今日のわたしの生涯 58）

3. 力を受ける

- a. 弟子たちが聖霊の力を受けたとき、彼らの経験はどのようなものでしたか（使徒行伝 2:2-4）。この経験は、終わりの時代の神の教会の経験とどのように似ていますか。

「弟子たちの時代の聖霊の注ぎは『前の雨』であり、結果は栄光に満ちていた。しかし、後の雨はさらに豊かなのである。」（今日のわたしの生涯 60）

- b. 彼らは受けた力で何をしましたか（使徒行伝 4:33）。

「弟子たちは……魂の救いのための重荷を負っていた。福音は地の果てまで伝えられなければならなかった。そこで彼らはキリストが約束された力を授けて下さるように主張した。そのとき、聖霊が注ぎだされ、幾千もの人々が一日に改心した。

今もそうなる。人の推論の代わりに、神のみ言葉が説かれるようにしなさい。クリスチャンは自分たちの不和を取り除き、失われた人々の救いのために神に献身しなさい。信仰のうちに祝福を求めさせなさい。そうすれば、それはもたらされる。

神への熱心が強い力をもって真理に対する証言を担うために弟子たちを動かした。この熱心が、キリストとしかも十字架につけられたキリストの贖いの愛の物語を伝える決意をもって、わたしたちの心を燃やすべきではないだろうか。」（同上 61）

- c. わたしたちがこの力を受ける条件は何ですか（ヨエル 2:15-17）。

「たえず新しく恵みの供給を受けている人々だけが、自分たちの日ごとの必要とその力を用いる彼らの能力に従って力を受けるのである。特別に霊的な力を授けられることによって、魂を勝ち取るために奇跡的にふさわしくされるであろう将来をいつか見ているかわりに、彼らは神が自分たちをご自分の御用に見合う者としてくださることができるように、日々神に屈服している。日ごとに彼らは自分たちの手の届くところにある奉仕のための機会を活用している。日ごとに彼らは自分たちがどこにしようと、それが家庭における慎ましい働きの領域であろうと、あるいは有用な公の伝道地であろうと、主人のために証言している。」（同上 60）

4. 今日のわたしたちのための約束

a. 今日、聖霊の特別な力について、どの約束が与えられていますか (ヨエル 2:23)。

「地上における神のみわがが閉ざされる終末の時には、聖霊の導きにより、献身した信徒たちのささげる熱心な努力に、神の恵みの特別なしるしが伴うのは事実である。種まき時と、収穫のころに東方の国々に降る前の雨、後の雨という比喻を用いて、ヘブルの預言者たちは、神の教会に異常なほど豊かに霊的恵みがさずけられることを預言した。使徒の時代の聖霊の降下は前の雨、またはさきの雨の始まりであった。そして、その結果はすばらしかった。終わりの時まで聖霊はまことの教会に臨在するのである。

地上の収穫が終わりに近くなると、教会を人の子イエスの来臨に備えるために、霊的な恵みが特別に与えられると約束されている。この聖霊の降下は後の雨にたとえられている。クリスチャンは『春の雨の時』にこの特別の力を収穫の主に求めなければならない。これに応じて『主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い』『豊かに雨を降らせ、……秋の雨と春の雨とを降らせられる』（ゼカリヤ書 10:1、ヨエル書 2:23 ）。」（患難から栄光へ上巻 51.52）

b. ヨハネによって、どの働きが預言されましたか (黙示録 18:1)。今日、わたしたちは第四の天使の働きにどのように参加することができますか。

「神の御霊が人々の心を動かしている。そしてその感化力に応える人々は世における光となる。彼らが、ペンテコステの聖霊降下の後にしたように、他の人々に自分たちが受けた光を伝えるためにどこへでも出て行っているのが見られる。そして彼らが自分たちの光を輝かせている間、ますます聖霊の力を受けるのである。地は神の栄光によって明るくされる。……

幾百幾千もの人々が家族を訪問し、彼らの前に神のみ言葉を開いているのが見られる。心は聖霊の力によって確信を受け、本物の改心の精神が表わされる。至る所で、扉が真理の宣布に対して開かれる。世は天の感化力で明るくされたように見える。」（今日のわたしの生涯 63）

5. 聖霊のために祈る

- a. わたしたちが生きている時代を考えると、今日わたしたちのための神の願いは何ですか（ゼカリヤ 10:1）。

「地の収穫を実らせる後の雨は教会を人の子の来臨に備える特別な恵みを表している。しかし、前の雨が降らない限り、命がない。緑の芽が出てこない。前の雨がその働きをしない限り、後の雨には完成に至らせる種がないのである。……

クリスチャンの徳を絶えず発達させなければならない。絶えずクリスチャン経験において前進がなければならない。……

自分たちの持っている光に従って生きている人々だけがより大きな光を受けるのである。わたしたちが日ごとに活動的なクリスチャンの徳を例証することにおいて前進していなければ、後の雨における聖霊の現れを認めることはない。それはわたしたちの周りのすべての人たちに降るかもしれないが、わたしたちはそれを認めることも受けることもないのである。」（牧師への証 506, 507）。

「わたしたちは、悔いた心をもって、今最も熱心に、この後の雨の時に、恵みの雨がわたしたちに降り注がれるように祈ろう。わたしたちが出席するすべての集会において、まさにその時、神がわたしたちの魂に温かさと潤いとを与えて下さるやうにとの祈りが上るべきである。聖霊のために神に求めるとき、それはわたしたちのうちに柔和、思いのへりくだり、すなわち完成させる後の雨のために神に依存しているという意識をもたらす。もしわたしたちが信仰のうちにこの祝福を祈り求めるなら、神が約束された通り、それを受けるのである。」（同上 509）

個人的な復習問題

1. なぜわたしたちは弟子たちよりもさらに聖霊の力を必要としているのですか。
2. 聖霊の注ぎのために準備していた弟子たちの経験から、わたしたちは何を学ぶことができますか。
3. 霊的な力の特別な賜物を通して、わたしたちが魂を勝ち取るのに奇跡的にふさわしくされる将来を見ている代わりに、今日、わたしたちは何ができますか。
4. わたしたちはどのようにして世における光となりますか。わたしたちが自分の光を輝かせるとき、何が起こりますか。
5. 前の雨の働きは何ですか。それは後の雨とどのように関係していますか。

祈ることを教えてください

「また、イエスはある所で祈っておられたが、それが終わったとき、弟子のひとりが言った、『主よ、ヨハネがその弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを教えてください』。」(ルカ 11:1)

「キリストの弟子たちは、彼の祈りとそして神との交わりの習慣とに強い感銘を受けた。イエスからしばらく離れていた彼らは、ある日、イエスが熱心に祈っておられる姿を見つけた。イエスは、彼らの帰って来たことには、気づかれぬかのように、声をあげて、祈っておられた。弟子たちは、深い感銘を受けた。イエスが祈りを終えられると、彼らは、『主よ、……わたしたちにも祈ることを教えてください』と叫んだ。」(キリストの実物教訓 115)

推奨文献： 祝福の山 127～152

日曜日

9月9日

1. 主の祈りからの教訓

- a. キリストの祈りと祭司たちの形式的な祈りの違いを聞いた弟子たちは、イエスに何を求めましたか。主はどの模範となる祈りを与えてくださいましたか (ルカ 11:1-4)。
- b. イエスは、わたしたちに祈りをどのように始めるようお教えになりましたか。わたしたちはだれに祈っているのですか (マタイ 6:6, 9)。イエスのみ名によって祈るとはどういう意味ですか。

「キリストのみ名によって祈ることには多くの意味がある。それはわれわれがキリストの品性を受け入れ、キリストの精神をあらわし、キリストのみわざをなすことを意味する。救い主の約束は条件つきで与えられている。『もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである』と主は言われる (ヨハネ 14:15)。主は人を罪のうちにあって救われるのではなく、罪から救われるのである。そして、主を愛する者たちは、従うことによって彼らの愛を示すのである。」(各時代の希望下巻 150)

「イエスの名によって祈ることは、ただ祈りの前と後ろにイエスのみ名を唱えるということではない。それは、イエスの心と精神をもって祈り、それとともにイエスのみ約束を信じ、その恵みに頼り、このお方のみわざにいそしむことである」(キリストへの道 139)

2. 答えられる祈りの条件

a. 神が祈りに応えて下さる条件は何ですか (ヨハネ第一 3:22; マタイ 21:22)。

「神の約束はみな条件に基づいてなされている。もしわたしたちがこのお方のみ旨をなし、真理のうちに歩むならば、そのとき、わたしたちは望むものを求めることができ、それがわたしたちになされるのである。わたしたちが従順になるために熱心に努力する間、神はわたしたちの嘆願を聞いて下さる。しかし、このお方はわたしたちが不従順のうちにあるとき、祝福することがおできにならない。もしわたしたちがこのお方の戒めに従わないことを選ぶならば、わたしたちは『信仰、信仰、ただ信仰を持ちなさい』と叫ぶかもしれないが、確かな神のみ言葉から応答が返ってくるのである、『行いのない信仰は死んだものである』(ヤコブ 2:20 英語訳)。そのような信仰はただやかましい鐘や騒がしい鏡鉢のようなものである。神の恵みの益を得るためには、わたしたちの側で果たす分がある。わたしたちは忠実に働き、悔い改めにふさわしい実を結ばなければならない。」(信仰と行い 47)

b. わたしたちの周囲にいる困窮している人々に対するわたしたちの義務は何ですか (箴言 3:27, 28)。困窮している人々に対するわたしたちの態度は、どのようにわたしたちに返ってきますか。

「神はあなたの手を困窮している人々に広く開き、苦しんでいる人々、あるいは欠乏に耐えている人々に最も優しい同情を抱くよう命じておられる。もしあなたが不注意に彼らの叫びに背を向けるなら、主は確かにまったく同様にあなたの祈りに背を向けられ、苦悩の時にあなたに耳を傾けられないであろう。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1891年10月6日)

c. 他の人々を助けるにことにおいて、神はわたしたちがどのようにご自分と協力することを望んでおられますか (コリント第一 3:9)。

「わたしたちは神と共に働く同労者である。わたしたちは何もせず、主人のために大きな働きをするために、何か大きな機会を待ちながら、何もせずに座っているべきではない。あなたはあなたの道の真ん中にある義務をなおざりにすべきではない。そうではなく、あなたの周りで開かれた小さな機会を生かすべきである。」(信仰と行い 47)

「わたしたちは、〔悲しんでいる人〕のために祈るとともに、もっと困っている人を助けるように彼らを励まさなければならない。他人を助けようと努力するとき、その人自身の心から暗黒は追い払われるであろう。わたしたちが慰められたその慰めをもって他人を慰めようとするとき、祝福が自分に返ってくるのである。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング 235)

3. 祈りにおけるふさわしい姿勢

- a. 祈るときにひざまずく聖書的な模範が、義務でもありかつ特権であるこの姿勢を明示していますか (列王紀上 8:54, 55; エペソ 3:14)。

「公でも個人の礼拝でも、わたしたちが神に嘆願を捧げるときには、み前にひざをかがめて頭を垂れるのがわたしたちの義務である。この行為は、わたしたちが神に依存していることを示す。」(セクレット・メッセージ 2 巻 312)。

「われわれの模範であられるイエスは『ひざまずいて、祈って言われた』(ルカ 22:41)。弟子たちについても、彼らは『ひざまずいて祈った』と記されている(使徒行伝 9:40)。パウロは、われわれの主イエス・キリストの父なる神に『ひざをかがめ』ると言った(エペソ 3:14)。エズラはイスラエルの罪を神に告白したときに、ひざまずいた(エズラ記 9:5 参照)。ダニエルは『一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した』(ダニエル書 6:10)。(国と指導者上巻 23)

- b. エリヤが雨を求めて祈ったとき、エリヤの姿勢はどのようなものでしたか (列王紀上 18:42)。他にだれが、似たような姿勢で祈りましたか。またなぜこの態度は公の礼拝ではふさわしくないのですか (マタイ 26:39)。

「キリストが、人の魂のために払われる価について思いをめぐらしておられる姿を見なさい。苦悩のあまり、主は、神から遠くへ引き離されまいとするかのように、冷たい大地にすがりつかれる。冷たい夜露がそのひれふしたおからだにおりるが、主は気にされない。その青ざめたくちびるから、『わが父よ、もしできることでしたら、どうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください』とのいたいたしい叫びがもれる。それでもなお主は、『しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい』とつけ加えられる(マタイ 26:39)。(各時代の希望下巻 178)

「家庭礼拝で、祈りを捧げている人が顔を下に垂れ、あたかも長い病気から回復したばかりであるかのように低く弱々しい声で語るとき、どれほど多くのものが失われていることであろう。……そのように口にされる祈りは、密室の中ではふさわしいが、公の礼拝ではふさわしくない。なぜなら、彼らと共に集まっている人々が、言っていることを聞くことができないかぎり、アーメンと言えないからである。」(クリスチャン教育 127)

- c. イエスは与えられようとしている食事に感謝を捧げるために、群衆にどの姿勢をとるように言われましたか (ヨハネ 6:10, 11)。

4. 従順な精神をもって祈る

- a. わたしたちの祈りにおいて、どのように神への従順を示すことができますか (ヨハネ第一 5:14, 15)。

「イエスは、『あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでになえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう』と言われる (マルコ 11:24)。この約束には条件がある。それはわたしたちが神のみ旨に従って祈ることである。しかし、わたしたちを罪から清め、わたしたちをご自分の子とし、聖なる生涯をおくることができるようにすることは神のみ旨である。であるから、わたしたちはこれらの祝福を求め、それらを受けると信じ、それらを受けたと感謝することができる。イエスの許へ行き、清められ、律法の前に恥も自責の念もなく立つのはわたしたちの特権である。」(信仰によってわたしは生きる 141)

「神がわたしたちのために選ばれる道は何であっても、このお方がわたしたちの足のために定められる道は何であっても、唯一の安全な道である。わたしたちは日ごとに幼子のような従順な精神を抱き、神聖なみ旨の指示を識別できるようにわたしたちの目に天来の目薬を塗ってくださるよう祈るべきである。さもなければ、自分たちの意志が全く支配的に見えて、わたしたちは自分の考えに混乱してしまう。」(彼を知るために 249)

- b. マリヤはどのように神への従順を表しましたか (ルカ 1:38)。わたしたちはどのようにして同じ態度を持つことができますか。

- c. 真の従順は、何と共に手を携えて行きますか (ヤコブ 1:6)。

「天の恵みの管理人として、わたしたちは信仰のうちに求め、それから神の救いを信頼して待つべきである。わたしたちは自分たちの力で望むことを実現させようとして、このお方の前に踏み出すべきではない。このお方のみ名によってわたしたちは求め、それからこのお方の力を信じているように行動すべきである。」(思い、品性、個性 2 巻 467)

「わたしたちの弱々しい、二心の祈りは天からの答えをもたらさない。ああ、わたしたちは自分の嘆願を訴える必要がある! 信仰のうちに求め、信仰のうちに待ち、信仰のうちに受け、希望のうちに喜びなさい。なぜなら、求める者はみな見出すからである。このことにおいて真剣でありなさい。心を尽くして神を求めなさい。」(わたしたちの高い召し 131)

「義人の熱心な祈りは決して失われることがない。答えはわたしたちの期待通りに来ないかもしれないが、それは来る。なぜなら、神の言葉が保証しているからである。」(同上 134)

5. 祈るべき時

- a. 一日の間、いつ祈るべきですか（詩篇 55:17）。
- b. わたしたちは自分の祈りをこれらの時に限定すべきですか（テサロニケ第一 5:17）。

「神に祈りをささげるのに、不適當な時とか場所などはない。……雑踏した路上でも、商取引の最中でも、ちょうどネヘミヤがアルタシャスタ王の前で自分の願いを告げたときのように、神に願いをささげて導きを請うことができる。」（キリストへの道 136）

「わたしたちは道を歩くとき、イエスと共に語ることができる。そしてこのお方は、わたしはあなたの右側にいると言われるのである。」

わたしたちは心のうちに神と交わることができる。わたしたちはキリストと連れ立って歩くことができる。わたしたちが日ごとの労働に携わっているとき、人間の耳には聞こえない心の願いを口にすることができる。しかし、言葉は沈黙のうちに死滅したり、失われたりすることはありえない。何ものも魂の願いを覆い隠すことはできない。それは町の雑踏を越えて、機械の雑音を越えて上るのである。わたしたちが語っているのは神であり、わたしたちの祈りは聞かれるのである。」（福音宣伝者 258）

個人的な復習問題

1. もしわたしたちがイエスのみ名によって祈るならば、どのように生きるべきですか。
2. 神はいつ祈りに応えてくださいますか。
3. なぜ、わたしたちは定例の公の祈りでも個人の祈りでも、ひざをかがめるべきなのですか。
4. わたしたちはどのように従順な精神で祈ることができますか。わたしたちはどの答えを喜んで受け入れますか。
5. わたしたちがその日の義務のために出ていくとき、どのように神に祈ることができますか。

祈ることを学ぶ

「神よ、あなたはわたしを若い時から教えられました。わたしはなお、あなたのくすしきみわざを宣べ伝えます。」(詩篇 71:17)

「家庭の教会で、子供たちはどのように神に祈り、信頼するかを教えられるべきである。……へりくだりのうちに、優しきで満たされた心をもって、そしてあなたと子供たちの前に誘惑と危険があるという自覚をもって、来なさい。信仰によって彼らを祭壇に結びつけ、彼らのために主の保護を嘆願しなさい。子供たちをその単純な言葉で祈りを捧げるよう訓練しなさい。彼らが神を呼び求めると、神がお喜びになることを教えなさい。」(両親、教師、そして生徒への勧告 110)

推奨文献： 家庭の教育 562 – 572
人類のあけぼの下巻 220 – 229

日曜日

9月16日

1. テモテは祈ることを学ぶ

- a. テモテはどこで、どのように祈ることを学びましたか (テモテ第二 1:5; 3:14, 15)。

「テモテの父はギリシヤ人で、母はユダヤ人であった。テモテは子供のころから聖書を知っていた。彼が自分の家庭で見た信仰は、健全で良識的であった。聖書に対する彼の母と祖母の信仰は、彼に神のみこころをなすことの祝福を絶えず思い出させた。神のみことばは、これら二人の敬虔な婦人たちがテモテを導いた原則であった。この二人から受けた教訓の霊的な力によって、彼の語ることは純潔で、彼は周囲の悪影響にけがされなかった。このように、家庭の訓育者たちは、神と協力して、彼が重荷を負う準備をしたのであった。」(患難から栄光へ上巻 218)

「テモテの母親と祖母は彼を神のために訓練する努力において一致していた。彼の教科書は何であっただろうか。それは聖書であった。パウロは、福音における彼の父親であったが、『幼い時から、聖書に親しみ』と宣言している。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 918)

2. サムエルは祈ることを学ぶ

- a. サムエルは若い子供として神の声をどのように聞き分けるか、また自分自身の祈りへの答えを特定するかを知っていましたか（サムエル記上 3:7）。彼の時代、このように知らないことは一般的でしたか（サムエル記上 3:1）。

「サムエルは最も墮落的な感化力に囲まれている子供であった。彼は彼の魂を悲しませる事柄を見聞きした。エリの息子たちは、聖なる職務について奉仕していたが、サタンによって支配されていた。……〔サムエルは〕恐るべき報告で全イスラエルを満たした罪にあずかることをせず、あるいはそれらを少しも喜ばなかった。サムエルは神を愛した。彼は自分の魂を天との非常に密接なつながりの中に保っていたので、御使がエリの息子たちの罪、すなわちイスラエルを墮落させていたことに関して、彼に語るために遣わされた。」（教会への証 3 巻 472, 473）

「神からこのメッセージを受ける前、『サムエルはまだ主を知らず、主の言葉がまだ彼に現されなかった』（同 3:7）。それというのは、彼が、まだ、神の預言者に与えられる神の臨在のこのような直接のあらわれを知らなかったということである。主は、予期しない方法で、ご自分をあらわし、少年の驚きと質問とによって、エリがそのことを聞くようになることをご計画になった。」（人類のあけぼの下巻 240）

- b. サムエルは神の声と、地上の友人であり良き指導者であるエリの声と、どのように取り違えましたか。神がサムエルを呼んでおられることは、エリにとって何を示唆していましたか（サムエル記上 3:2-6, 8）。

「サムエルは、エリが呼んだものと思って、急いで祭司の寝台のところへ行行って、『あなたがお呼びになりました。わたしは、ここにおります』と言った。しかし、『わたしは呼ばない。帰って寝なさい』とエリは答えた（サムエル記上 3:5）。サムエルは、三回呼ばれて、三回ともエリは同じような返答をした。そのとき、エリは、その不思議な呼び声が、神の声であることを確信した。主は、ご自分が選ばれた白髪のしもべをさしおいて、幼児に語られた。このこと自体がエリとエリの家に対してはつらいことであったが、当然の譴責であつ。」（同上 239, 240）

- c. 少年が呼んでおられるのが神だということを悟ったときに、神は彼に語られましたか。神は何と仰せになりましたか（サムエル記上 3:11）。

3. ダビデは祈ることを学ぶ

- a. ダビデは地上生活において、怒った狂人の王からののがれる逃亡者であったとき、どのような要請をしましたか。神はどのように答えてくださいましたか（サムエル記上 23:1, 2, 4, 10-12）。

「ダビデは、まだ王に追われていたので、休息と安全の場所はなかった。ケイラにおいて、彼の勇敢な部隊は、ペリシテ人の襲撃から町を救ったが、こうして彼らが救い出した人々の中にあっても安全ではなかった。彼らはケイラからジフの荒野へ行った。」（人類のあけぼの下巻 339）

- b. ダビデは王になって、誘惑に陥った後、どの祈りを神にしましたか（詩篇 51:1-4, 7）。

「大きな罪を犯した後、悔恨と自己嫌悪の思いの中にもなお彼は神を最上の友として仰いだ。」（教育 192）

「ダビデが罪を犯した後、にさげた祈りは、罪に対する悲しみをよくあらわしている。彼はまじめに、心の底から悔い改めたのである。自分の罪を弁解しようとするのでもなければ、恐ろしい刑罰をのがれようという気持から祈ったのでもない。ダビデは自分の罪の恐ろしさ魂の汚れを認めて、自分の罪を憎んだのである。彼が祈ったのは、罪のゆるしばかりでなく心がきよめられることであった。」（キリストへの道 25）

- c. ダビデは何を、そして何の目的で嘆願しましたか（詩篇 51:12, 13）。

「ダビデの生涯は、神に大いに祝福され、恵まれた者でさえも、自分は安全であると思ったり、目をさまして祈ることを怠ったりすべきでないことを警告するためのものであった。……幾千という人々が、誘惑者の力に襲われる危険を自覚したのである。主から大きな栄誉を与えられたダビデの墮落は、彼らに自己不信の念を起こさせた。信仰によって与えられる神の力だけが、彼らを守ることができることを彼らは悟ったのである。」（人類のあけぼの下巻 424, 425）

4. マナセは祈ることを学ぶ

- a. マナセとはだれでしたか。彼の統治の当初における彼の品性を述べなさい（歴代志下 32:33; 33:1-10）。

「ヒゼキヤの時代に繁栄したユダ王国は、長年にわたるマナセの悪政の間に、またもや衰微した。その時に異教主義が復活し、多くの人々が偶像礼拝に陥った。『マナセはこのようにユダとエルサレムの住民を迷わせ、……国々の民にもまさって悪を行わせた』（歴代志下 33:9）。先代の輝かしい光の次に、迷信と誤りの暗黒が続いた。はなはだしい罪悪が発生してはびこった。暴政、圧迫、あらゆる善に対する憎しみが起こった。正義はまげられ、暴力は勝ち誇った。』（国と指導者下巻 1）

- b. 神はこの高慢な王に注意を向けさせ、祈ることを教えるために、どの経験を彼に臨ませましたか（歴代志下 33:11）。彼が祈るために非常に長く待っていた結果は何でしたか。

「悔い改めないでいるならば国民に何が起こるかという証拠として、主は彼らの王がアッシリアの兵隊たちの一団によって捕らえられることをお許しになった。『彼らはマナセを……青銅のかせにつないで、バビロンに引いて行った』。バビロンは彼らの仮の首都であった。この苦難によって王は我に返った。『彼は……その神、主に願い求め、その先祖の神の前に大いに身を低くして、神に祈ったので、神はその祈を受けいれ、その願いを聞き、彼をエルサレムに連れ帰って、再び国に臨ませられた。これによってマナセは主こそ、まことに神にいますことを知った』（歴代志下 33:11-13）。しかし、この悔い改めは著しいものであったにもかかわらず、長年にわたる偶像礼拝の腐敗的影響から国家を救うには時すでに遅すぎたのである。多くの者はつまずき倒れ、二度と立ち上がらなかったのである。』（同上 2, 3）

- c. マナセが新しく見出した祈りの生涯の結果は何でしたか（歴代志下 33:12, 13, 15, 16）。彼の死の時に、彼は何で知られるようになりましたか（18, 19 節）。

5. 異教徒たちは祈ることを学ぶ

- a. 何が、異教徒のナアマンに創造主を自分の神として受け入れさせましたか（列王紀下 5:1, 9-15）。

「この少女は家庭から遠く離れた奴隷であったけれども、神の証人のひとりで、神がご自分の民としてイスラエルを選ばれた目的を無意識のうちに達成したのである。彼女がその異教の家庭で仕えていたときに、彼女の主人を気の毒に思った。……彼女は、エリシャには天の神の力が宿っているのを知っていた。そして、この力によってナアマンはいやされると信じたのである。

異教の家庭における捕らわれの少女の行動とその態度は、初期の家庭訓練の力を力強く証明している。」（国と指導者上巻 212, 213）

- b. かつては異教徒の君主であったネブカデネザルを謙遜に神に信頼するよう導いた経験は何でしたか（ダニエル 4:28-36）。彼の屈辱の後、何が彼の宗教的な経験でしたか（ダニエル 4: 2, 3, 37）。

「ネブカデネザル王は、ダニエルがしばしば彼の前で神のみ名を尊んだのであったが、ついに徹底的に改心し、『天の王をほめたたえ、かつあがめたてまつる』ことを学んだ。

バビロンの王座についた王は神聖な性質の憐れみと恵み、義と平和にあずかった感謝の心から、温かく雄弁な証をなして、神のための証人となった。」（SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1170）

個人的な復習問題

1. テモテの母親と祖母は、どのように彼を神のために訓練しましたか。
2. 神が子供サムエルに伝達することを選ばれたのはなぜですか。
3. ダビデの墮落後、その祈りのまじめさを示したものは何ですか。ダビデの友なるお方は彼をお見捨てになりましたか。
4. マナセの祈りは神について何を教えますか。
5. 神の証人たちは、どのように異教の支配者たちを神に祈るよう導きましたか。

生きる方法としての祈り

「主はわたしの願いを聞かれた。主はわたしの祈をうけられる。」(詩篇 6:9)

「ひとりで居るときも道を歩くときも、毎日の仕事に忙しいときも、救い主と語る習慣をつけなさい。助け、光、力、知識を求めて絶えず心を沈黙のうちに天に向けなさい。そして一つ一つの呼吸が、すべて祈りとなるべきである。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 496)

推奨文献： キリストへの道 159 - 178

日曜日

9月23日

1. 絶えざる祈り

a. 一日中、わたしたちはどのように献身的な態度を維持することができますか(テサロニケ第一 5:17)。これは一日中お祈りだけをしていることを意味していますか。

「わたしたちの生涯はキリストの生涯のごとく、山と群衆の間になければならない。祈るばかりで働かない人は、まもなく祈ることをやめるか、その祈りはただ形式的な習慣になってしまう。人が社会生活から離れてクリスチャンとしての義務と十字架を負うことを避け、自分たちのために熱心に働かれた主のため働くことをやめるとき、祈る主題を失ってしまい、神を拝する刺激も共に失ってしまう。彼らの祈りは個人的になり、利己的なものになる。」(キリストへの道 139)

b. この働きはどこから始まりますか(箴言 23:7 (上句) ; コリント第二 10:5)。

「思想をキリストに集中させ続けるという断固とした努力がなされないかぎり、恵みはそれ自体生活の中にあらわれることができない。思いは霊的な闘いに従事しなければならない。すべての思想はキリストの従順へととりこにされなければならない。すべての習慣は神の支配下におかれなければならない。」(天国で 164)

2. 力強い祈り

- a. 詩篇の多くの主題、最も多くダビデ王によって記されたことは何ですか（詩篇 61:1; 69:13）。
- b. 詩篇は他にどのような目的を意図していましたか（詩篇 144:9; 149:1）。

「神のみ言葉を記憶するには、それを歌にしてくり返すことが何よりも効果的な方法である。このような歌はふしぎな力を持っている。それは、粗野で無教養な性質を和らげる力を持ち、また人の思いを活気づけ、同情心をめざめさせる力を持ち、行動の一致を促し、勇気を失わせたり 努力を弱めたりするような暗い思いや胸さわぎなどを払いのける力をもっている。……

宗教的な行事の一部として、歌をうたうことは祈りをささげることと同様に礼拝の行為である。事実、たいていの歌は祈りである。このことを認めるように子供に教えるとき、その子供は、自分が歌う言葉の意味をもっと深く考え、その言葉のもつ力にもっと心を動かされるであろう。」（教育 197.198）

- c. 旧約の中で、他の王たちが捧げたいくつかの力強い祈りについて述べなさい（列王紀上 3:6-9; 列王紀下 19:15-19; 歴代志下 20:5-12）。わたしたちは自分たちの祈りの中で、どのように聖句を組み入れることができますか。

「正しい方法で求めるならば、すべての人が持つことのできる一つの祝福がある。それは神の聖霊である。そしてこれは他のすべての祝福を後に続いてもたらす祝福である。もしわたしたちが幼子のように神のみ許へ来て、このお方の恵みと力と救いを、自分自身を持ち上げるためではなく、その祝福を自分たちの周りにいる人々にもたらすことができるために求めるならば、わたしたちの嘆願が拒まれることはない。そうであれば、わたしたちはどのようにこのお方のみ約束をつかみ、それらを自分自身のものとして主張できるかを知ることができるように、神のみ言葉を研究しようではないか。そのとき、わたしたちは幸福になる。」（天国で 113）

「神の徳をその子らにお与えになることは、神の栄光である。神は人々が最高の標準に達するのをご覧になりたいと望んでおられる。そして、信仰によってキリストの力をつかみ、主の確かなみ約束に訴えてそれを自分のものとして求め、拒まれないようしきりに聖霊の力を求めるならば、彼らはキリストにあつて完全にされるのである。」（患難から栄光へ下巻 230）

3. 答えられる祈りに対する記念塔

- a. イスラエル人にヨルダン川を渡らせるために、神が大いなる奇跡を働かれた後、このお方は彼らに何をするように言われましたか（ヨシュア 4:1-9）。

「しかし、祭司たちが川から上がってくる前に、この素晴らしい奇跡が決して忘れられないように、主はヨシュアに高名な人々を各部族から選んで、川床で祭司たちが立っていた場所から石を持ってこさせ、それを自分たちの肩に乗せてギルガルまで運ぶように、そして神がイスラエルを乾いた土の上を通してイスラエルにヨルダン川を渡らせてくださったという事実を覚えるため、記念碑を建てるようにお命じになった。これは絶えず主が彼らのためになされた奇跡を思い起こさせるものとなるのであった。年月が経つとき、彼らの子供たちはこの記念について尋ね、そして彼らは繰り返し子供たちにこの素晴らしい歴史を物語り、それが終わりの世代まで消えることのない印象を思いに残すに至るのであった。」（教会への証 4 巻 158）

- b. わたしたちの生涯において、何に集中することを避けるべきですか（詩篇 25:7; 79:8）。

「過去の生涯の不愉快な思い出、罪や失望ばかりをかき集め、そのことを語り、悲しんでついには失望してしまうことは決して賢明なことではない。失望した魂は暗やみにおおわれ、心から神の光を閉ざしてしまい、他の人々の行く手にも陰を投げかける。」（キリストへの道 163）

- c. その代わりに、わたしたちは何を熟考すべきですか（詩篇 105:5; ヘブル 12:2, 3）。

「しかし、神が描いてくださった輝かしい光景を感謝しよう。わたしたちは神の愛の確証を集めて、つねにそれをながめるようにしよう。すなわち、神のみ子が、悪魔の勢力より人を救うために、父のみくらを捨て、人性をもって神性を覆われたこと、また、わたしたちに代って勝利を得、天を開き、栄光に輝く神のみくらを人にあらわされたこと、更に罪のため陥った滅びの淵より墮落した人類を救い出し、無限の神との交わりに入れられたこと、そして人は、あがない主を信じて神の与えて下さった試練に耐え忍ぶならば、キリストの義を着せられ、神のみくらにまで高められることなど、こうしたことをわたしたちが瞑想するように神は望んでおられるのである。」（同上 163, 164）

4. 希望をもった祈り

a. 祈りにおける弟子たちの経験はどのようなものでしたか (ヨハネ 16:24 (上句))。

「その時にはまだ弟子たちは救い主の無限の方法と能力について知っていなかった。主は彼らに、『今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった』と言われた (ヨハネ 16:24)。彼らの成功の秘訣は、主のみ名によって力と恵みとを求めることにあることを主は説明された。……真心からの祈りはどれも天に聞かれる。それはなめらかなことばではないかも知れないが、その中に心がこもっているとき、イエスが奉仕しておられる聖所へのぼって行き、イエスはそれをぎごちないどもることばが一つもなく、ご自身の完全という香で美しくかぐわしいものとして、父にささげてくださるのである。」(各時代の希望下巻 148.149)

b. イエスは祈りにおいて、どのように御父に近づくよう、彼らを励まされましたか (ヨハネ 14:13, 14; 16:24 (下句)。これらの約束は、他にだれのためですか。

「『祈のとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう』(マタイ 21:22)。これらの言葉は、全能の救い主が授けることのできる万物が、このお方に信頼するすべての人に与えられるという保証である。天の恵みの管理人として、わたしたちは信仰のうちに求め、それから神の救いを信頼して待つべきである。わたしたちは自分たちの力で望むことを実現させようとして、このお方の前に踏み出すべきではない。このお方のみ名によってわたしたちは求め、それからこのお方の力を信じているように行動すべきである。』(思い、品性、個性 2 巻 467)

「ああ、兄弟姉妹がた、わたしたちに必要なのは、生きていて、奮闘し、成長する、神のみ約束を信じる信仰であり、それらの約束は本当にあなたのためであり、わたしのためなのである。」(パシフィック・ユニオン・レコーダー 1912 年 12 月 26 日)

c. わたしたちが祈りにおいて神に近づくとき、希望はどの役割を果たしますか。わたしたちはどのようにこのお方のみ前に来るべきですか (ローマ 5:5; ヘブル 4:16)。

「生涯の大争闘においてサタンの誘惑に抵抗し、へりくだりのうちに神を求め、このお方のみ前に自分の魂を無力なありのまま横たえ、このお方が自分の助け手、また自分の守り手となつてくださることを期待することほど、魂を強くするものは他にない。」(神のむすこ娘たち 121)

5. 治療としての祈り

- a. わたしたちが敵との戦いにおいて力を得ることができるように、どの約束をわがものと主張することができますか（イザヤ 40:29; 41:10; 詩篇 31:24）。

「インマヌエルの血染めの旗の下で仕える者は、英雄的努力とたゆまぬ忍耐力を要求することをしなければならない。しかし、十字架の兵卒は、恐れることなく、戦いの最前線に立つのである。敵が攻め寄せてくると、彼は、とりでに助けを求める。そして、彼は、みことばの約束を主の前において訴えるときに、その時の務めをなす力が与えられる。彼は、上からの力の必要を感じる。彼が得る勝利は、彼を自己高揚に導くのでなくて、力強いおかたにますます依り頼むようにさせるのである。彼は、大いなるかた、主に依り頼むことによって、力強く救いのメッセージを宣べ伝え、他の人々の心をゆり動かすことができるのである。」（患難から栄光へ下巻 43）

- b. 罪との戦いにおいてわたしたちが勇気を得るために、祈りにおいて他にどの約束をわがものと主張できますか（ヨシュア 1:9; イザヤ 49:25; コリント第一 15:57）。

「わたしたちはすべての悩みの時に、なんという源を見ることができることであろう。心は疑念を持つことができない。人は間違いを犯し、頑固で、反逆的で、神に対してさえ傲慢である。しかし主は親切で、忍耐強く、優しい同情を持つお方である。このお方には天地が意のままである。そしてこのお方はわたしたちが自分の必要と願いをご自分の前に提示する以前でさえ、わたしたちにちょうど必要なものをご存じである。」（今日のわたしの生涯 10）

個人的な復習問題

1. なぜわたしたちは社会から身を引いて、全生涯を祈りに捧げる必要がないのですか。
2. わたしたちはどのように神のみ言葉を自分たちの祈りに含むことができますか。これはわたしたちに何をなしますか。
3. イスラエルが自分たちの生涯における神の導きを覚えるために記念碑を用いたことから、何を学ぶことができますか。わたしたちはどのように同じことができますか。
4. わたしたちはどのように誘惑に対して勝利することができますか。
5. わたしたちの苦闘において、わたしたちを助けて下さる神の力を述べなさい。

第一安息日献金



7月7日

モルドバと東ヨーロッパユニオン
におけるメディア支部のために
(4 ページ参照)

8月4日

伝道学校と教育プログラムの
ために
(25 ページ参照)



9月1日

マダガスカルの本部のために
(46 ページ参照)